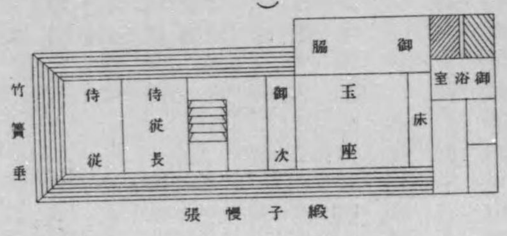
し、近衛騎兵、矛を擁し、衢を駢べて、これに次ぐ。儀仗肅然。火防夫等道を挾みて整列し、吏員、各種學校生徒、正服して奉迎し、民庶數萬、また道側に堵列して奉拜す。午後四時山形行在所に著きたまふ。御先發官杉孫七郎、宮島誠一郎及縣令三島通庸、舊米澤藩主上杉齊憲、新潟縣令永山盛輝等行在所御門外に奉迎す。

行在所は旅籠町博物館境内に新築す。その費、みな有志の獻に出づ。構造は二層樓にして十九室を造る。中庭に池を鑿ち、その周圍に竹木を雜植し、池中奇石を疊みて巖を爲し、上に青銅の巨鼇を置き、鼇口より水を噴出せしむ。また一屋を構へ、立花生花を陳し、盆栽を羅列す。　玉座は樓上に在りて、拾八疊。御次の間拾二疊。侍從の室また各拾二疊を敷く。板緣あり緞子幔幕を垂れたり。他の樓上に皇族大臣、勅任官の室あり。階下は供奉吏員の室とす。その略圖を次に記す。

地藏町なる神道事務分局佐伯菅雄が宅を以て、非常御立退所とし、供奉の諸員は、七日町旅籠町等の民家に宿泊す。千歳橋の磧にて煙火を揚げ、市街は國旗を掲げ球燈を點す。彩雲天に靡き、火光燦爛、歡呼の聲に滿てり。

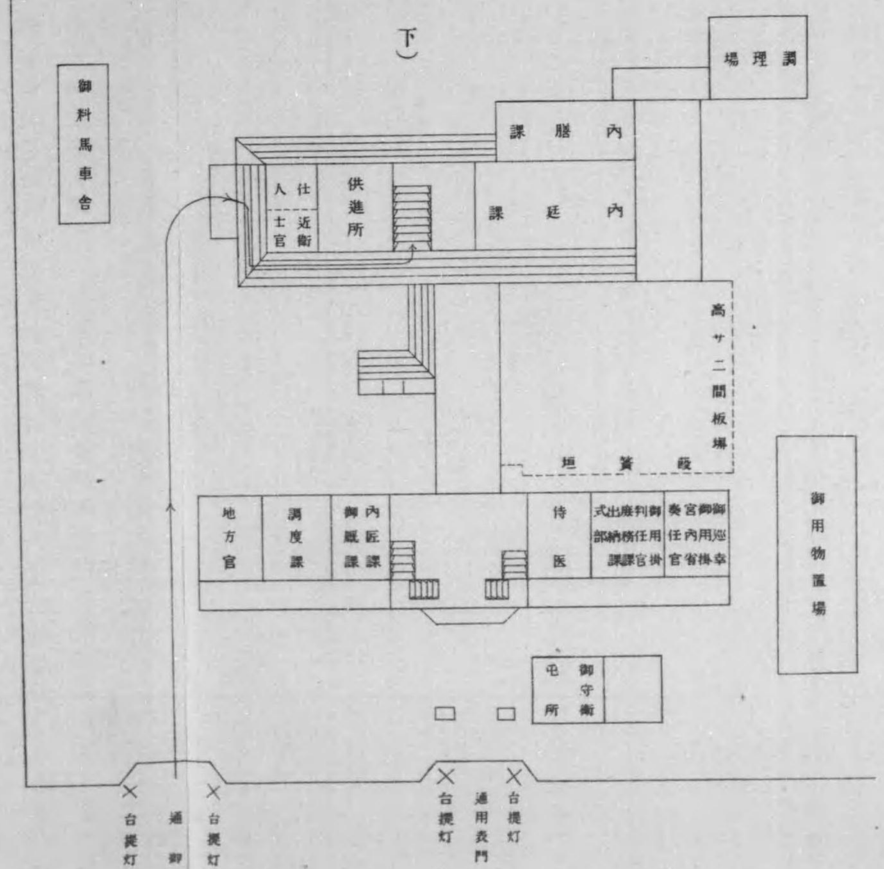
（階上）


御脇
御浴室
竹簀垂
侍從
侍從長
御次
玉座
床
緞子慢張

（階上）

皇族
大臣
參議
勅任官

（階下）


御料馬車舍
調理場
內膳課
內廷課
仕人
近衛士官
供進所
高サ二間板塀
坦簀殿
地方官
調度課
內匠課
御厩課
侍醫
式部
出納課
廳務
判任官
御用掛
宮內省
奏任官
御巡幸掛
御用物置場
御守衛所
台提灯
通御
台提灯
台提灯
通用表門
台提灯

山形は當時南村山郡に屬しぬ。もと水野眞次郎の封土にして廢藩の後、縣廳を此に置かれしより、日々に殷盛に趨き、當時戸數四千三百餘、人口二萬三千に餘り、小學校兒童二千百人、師範學校生徒百二十三人、また醫學校あり、官署は縣廳を初め福島裁判所支廳、南村山郡役所、病院、博物館、師範學校、電信分局、郵便局を置く。皆結構巍然たり。其の他、銀行あり新聞社あり。市街の長さ一里廿五丁、分ちて三十六街となしぬ。八日町東原に招魂社ありて、戊辰役の戰死者貳拾八名、西南役戰死者百三十四名を合祀するを以て、勅使を差遣して金幣を賜はせらる。

この日、恩賜せられしものを次に記す。

一御紋付三組木盃　御泊行在所　楯岡驛　笠原茂右衛門
一金五拾圓
一金參百五拾圓　同所修築に付　楯岡驛有志の者
一御紋付三組木盃　楯岡驛喜早伊右衛門
一金五拾圓
一貳拾圓　御小休所　北村山郡神町小學校
一金貳百圓　同所修繕に付　神町村日野久治郎

一金參圓　御厩課　神町村　高橋藤藏
一金參圓　騎兵休所　同村　高橋保次
一金五拾錢　御膳水御用　同村　日野眞澄
一金參拾圓　御晝行在所　東村山郡役所
一金貳拾圓　擊劍を演せしもの　天童驛　高橋德翁外廿名
一金五拾錢　御膳水御用　同驛　佐藤彌門
一御紋付三組銀盃　御小休所　漆山村　半澤久三郎
一紅白羽二重貳疋
一金五拾圓
一金五圓　御厩課並近衛騎兵休所　同村　結城喜右衛門

第九節　山形御駐輦（第九日、九月三十日）

朝雨ふる。午前九時、行在御出門縣廳に臨御したまふ。この日、縣令　行在所に詣りて臨幸を奏請し、警部二名を率ゐて御先導を爲したてまつる。書記官深津無一、僚屬と縣廳門外に奉迎す。西面し南を上にして羅拜せり。かくて縣令

御先導、便殿に著御、暫時御休憩あらせられ、やがて正堂に出御あり、縣治事務の奏上を聞しめさる。縣令恭しく祝辭を献じ、奏上書を奉呈しければ、左大臣熾仁親王これを受けたまふ。その書に曰へらく、

山形縣令從五位臣三島通庸、誠恐誠惶、謹テ奏ス。臣通庸曩ニ乏ヲ鶴岡縣ニ承ケ、三縣廢合ニ際シ、又續デ任ニ本縣ニ就キ、爾來夙夜勵精唯治績ノ其効ヲ奏セズ、人民ノ其所ヲ得ズ、以テ聖天子覆載ノ洪德ニ乖戻スルアランコトヲ恐ルルノミ。夫本縣ノ地タル、東北ニ僻在シ、人民質朴ナラザルニ非ズ、教化行ハレザルニ非ズ、物產與ラザルニ非ズト雖モ、一ハ山嶽重疊、一ハ海波洶湧、之クトシテ人馬ノ來往ヲ阻セザルナク。加フルニ各藩其ノ政略ヲ異ニシ、民俗其ノ習慣ヲ同クセザルノ跡ヲ承クルヲ以テ、輙ク其固陋ヲ脫スルコト能ハズ。臣通庸、曩ニ鶴岡縣ニ於テ實驗スルトコロト、前官施行ノ成績トニ考フルトコロアリ、僚屬ヲ策勵シテ、以テ心力ヲ致スモノ、茲ニ有年矣。幸ニ陛下聖明ノ餘光ニ賴リ、之ヲ三縣廢合以前ニ比スルトキハ、縣治ノ績ヲ効スモノ一ニシテ止マラズ。今ヤ

龍駕北巡、蹕ヲ本縣ニ駐メラル。臣通庸、平素瞻仰スル所ノ本懷ヲ達シ、感激ノ至ニ堪ヘズ。乃謹テ管内ノ現狀ト、廳中ノ事務ト、其概略ヲ提舉シ、以テ上達ス。

陛下若萬機ノ餘、乙夜ノ覽ヲ賜ラバ、獨臣通庸ノ榮ノミナラズ、實ニ管下六十七萬餘人ノ幸ナリ。臣通庸、誠恐誠惶、謹テ奏ス。

と乃ち王事に勤めし者の遺族、孝子、義僕、節婦、其の他篤行奇特者の行狀、賞與の次第、八十年以上の者、勸業の方法、開墾牧畜の景況、有位者、帶勳者、官吏の名簿、警察署及巡査の員數、學事景況、管内衞生上の概況管内地圖、統計一覽表等を錄して進獻す。

主上廳中各課の吏員執務の狀を覽そなはし、便殿に復御。午前九時五十分還幸あり、書記官以下、また門外に奉送す。次ぎて勸業製糸場に臨みたまふ。勸業課長等の吏員、門前に奉迎す。機械運轉の狀、紅女就業の景況を御覽あり。

それより師範學校に臨幸あらせらる。學務課屬、校長、監事、教員及生徒等門前に奉迎す。縣令、御先導したてまつりて、三階なる便殿に御したまふ。乃ち本校教則及校長齋藤篤信以下教員生徒の祝文、並に名簿を奉呈す。次ぎて二階の廣

間に臨御したまへる時、生徒中村能道、安孫子利三郎、通鑑擧要卷四建中靖國元年の條、卷十二貞觀十三年春正月の條を講し、武田甚作、物理學大氣壓力を實試し、佐々木忠藏、化學燃燒を實驗して　天覽に供ふ。課業用書器械、生徒作文、附屬小學校女生徒裁縫物陳列場各教室、裁縫場、製糸場等、御巡覽。午前十時三十分還御あらせたまふ。校長以下職員三十一名に酒饌料、優等生五名に書籍料を賜ひぬ。

又、博物館に臨御あらせらる。本館は行在所に充てられしを以て、假に南村山郡役所を用ひて、此に物產及古器書畫を陳列す。宮内省御買上の品種々ありき。

午後二時、福島裁判所支廳に臨御。判事一賀通文、訟獄一覽表を上る。次ぎて授產所に臨幸。糸を繰り、眞田織を營むの狀を御覽あり、職工等に金を賜ふ。また千歲公園に臨みたまふ。園は市街の東郭に在り。其の廣さ五萬八千餘坪、もと砂磧不毛の地なりしが、縣令三島通庸、これを開拓して圃場を爲り、桑、茶、穀、果等内外の良種を擇びて栽培し之を勸業試驗場となし、其の場内を劃して庭園を築き繚らすに流水を以てす。水廣さ二丈深さ二尺極めて清澈なり。園内は花木を雜植し又鐵管を埋め、馬見崎川の水を引きて之を噴騰せしめ滾々として竭き

ず。小邱あり、上に閣を構ふ、四時の觀に富めり、こゝに御小休あらせたまふ。園外、又、工場を設け、水力を以て器械を運轉し、機織をなし、棉を彈じ、絲を掛く、名づけて水力機織場といふ。これに臨みたまひて、廣幅鐵製機織綾織物三卷を宮內省に召したまふ。午後四時行在に還御あり。千歲公園は後年幾たびか更革を經て今は縣立中學校を建つ。左大臣親王、午前十一時卅分、御代巡として濟生館に臨まる。參議大隈重信、同大木喬任、內閣大書記官川田剛、一等侍醫伊東方成等從ふ。館長長谷川元良、教頭獨逸人ローレッ以下醫員、醫學校生徒等門外に奉迎す。各室を巡視あらせられ、醫學用紙塑人體、醫療器械等御覽あり。館長祝辭を上り、又館內繪圖、寫眞、種々の規定及統計表を獻ず。

この夜、ローレッ、福島縣令山吉盛典、新潟縣令永山盛輝を行在に召して謁を賜ふ。

進獻したるもの

一詠進　南村山郡山形宮町學校訓導　田中太次郎外八十六人

一松茸　山形縣令　三島通庸

一寫眞帖及葡萄　山形縣

一製茶二種　吉祥道開

一栗子山道圖十二枚　菅原白龍

行在所にて御覽に供したるもの

一油繪、最上川、白糸瀧、水虎淵、猿羽根峠　山形縣

一縣廳寫眞　山形七日町菊地新學

一上杉鷹山筆軸　米澤村山源藏

一後醍醐天皇綸旨　高湯村堀利兵衛

一湯花

一鴨　北村山郡

一くき魚　南村山郡

一鯉及錦魚　西村山郡

恩賜次の如し

一金百五圓　山形行在所修築に付　長谷川吉郎治外五十一名

一金五圓　非常御立退場　佐伯菅雄

一金壹圓五拾錢
一金六拾八圓
一百三拾六圓五拾錢
一金七拾三圓五拾錢
一金百五拾四圓七拾五錢
一金拾五圓五拾錢
一金七圓五拾錢
一三百九拾七圓貳拾五錢

奏任官貳名
判任用掛共百三十六人
等外吏巡査雇共五百四十六人
郡長郡書記百四十七人
戸長筆生六百拾九人
師範學校長以下教員冊一名
同校優等生五名
八十歳以上の者千五百八十九人

南村山郡	百拾九人	内	男四十七人 女七十二人
東村山郡	百二十人	内	男四十七人 女七十五人
西村山郡	百三拾四人	内	男六十六人 女六十八人
北村山郡	百七拾五人	内	男七十六人 女九十六人
最上郡	百二十四人	内	男七十四人 女五十四人
飽海郡	百九拾一人	内	男五十九人 女三十二人
東田川郡	百八拾九人	内	男七十七人 女十二人
西田川郡	百四拾九人	内	男四十四人 女百五人
東置賜郡	百六拾五人	内	男七十六人 女八十八人
西置賜郡	百四人	内	男四十四人 女六十人
南置賜郡	百二十人	内	男五十人 女七十人

この恩賜各郡地に於て行はる、今ここにその數を合載す。

戰死者遺族に賜はりし御沙汰書

舊山形藩士大久保傳平始二百十貳人戊辰及西南の役王師ニ從ヒ戰死候段憫然に思召サレ今般　御巡幸ニ付特旨ヲ以テ遺族へ祭粢料トシテ金千五十五圓下賜

明治十四年九月二十三日

左大臣　熾仁親王

博物館にて宮内省御買上品

米澤絲織　三疋
同男帶地　二本
新庄綾絹　二疋
青銅花瓶　壹對
鐵花瓶　壹個
赤磁花瓶　壹個
瓶掛　壹個
陶器砂糖入　壹個
花紋燭　貳箱

米澤節糸織　壹疋
同女帶地　壹本
鶴岡綾織　壹疋
同火鉢　二箇
黄石細工　五箇
急須　二箇
陶器花瓶　壹個
黑柿細工　壹個

縣令より奏上せる事項の中、忠死者、篤行者等の姓名を左に記す。

戊辰以後王師に從ひ戰死せる者幷遺族表

郡名	戊辰ノ役戰死者數	戰死者遺族戶主數	同家族ノ數
南村山郡	拾四名許	二十名	貳拾五人
計			計七十三人

東村山郡	拾四名	計二十名	貳拾七人
西村山郡	壹四名	計五名	參拾九人
北村山郡	貳參名	計五名	參拾貳人
最上郡	五拾四五名	計六十九名	六拾七人 貳百四十五人
東田川郡	四〇名	計四名	貳拾四人
西田川郡	參〇拾五名	計三十五名	貳拾八人 四拾九人
飽海郡	六〇名	計六名	六拾五人
西置賜郡	參〇名	計三名	三拾四人
東置賜郡	二〇名	計二名	〇二人
南置賜郡	貳拾五名	計五十二名	五拾貳人 百五拾貳人

戰死者合計貳百貳拾壹名內戊辰の役八拾八人　西南の役百參拾參人

同遺族合計九百貳拾貳人內戶主貳百拾貳人　家族七百拾人

○戊辰戰死者（原本、郡別取調詳記すれども今、これを藩別と爲し、其の人名のみを揭ぐ）

○舊山形藩

士、大久保傳平　士、赤星守人　士、松崎竹四郎
卒、烏居吉次郎　卒、加藤雅藏　卒、前田莊助
卒、稻葉半兵衛　士、高宮猪兵衛　卒、原田喜平太
士、小林榮　卒、柘植仲藏　卒、永井熊次郎

○舊上ノ山藩

士、管谷友尉　士、谷野廣平

○舊天童藩

士、緒形直人　士、野村半左衛門　士、山本外也
士、小林三平　士、五百澤安兵衛　士、井上文藏
士、佐藤瓶右衛門　士、北村金太夫　士、喜多村源吾
士、喜多村小次郎　士、吉田大八　士、海野彦吉
士、結城民次郎　士、加藤仙太郎

○舊仙臺藩

大谷村神官　白田外記　東根村神官　三浦藏人

○舊新庄藩

士、地主源七　士、堀彦右衛門　士、小屋春五郎
士、伊藏龜助　士、河上雅右衛門　士、白塚藤吉
士、齋藤竹藏　士、中鉢多吉　士、熊澤源次郎
士、納三之亟　士、富塚寛治　士、加藤安五郎
士、横山善太夫　士、天野權太夫　士、津田求馬
士、田口泰助　士、中村忠五郎　士、林順太郎
士、武石五十馬　士、白土保右衛門　士、大內亦右衛門
士、松井政吉　士、尾形與左衛門　士、佐々木力平
士、伊藤段之助　士、十時平太　士、黑田隼太
士、吉田運平　士、內藤龜太郎　士、平賀大藏
士、大塚保太郎　士、吉高傳治　士、土田長太夫
士、北條左金太　士、小山八藏　士、菅芳之助

士、岡村頼母　士、鈴木半太夫　士、美濃本藤三郎
士、金田秀太郎　士、山科丹治　士、庄司彦次郎
士、遅澤嘉七　士、大場元次郎　士、好間鐸次郎
士、古川英之助　士、安部井爲藏　士、柴田銀藏
士、佐々木久馬　士、門屋與惣兵衛　士、渡邊好右衛門
士、村越文次郎　士、森昌助　士、沼澤小太郎
士、後藤運平　士、增田榮吉

○舊米澤藩

士、堀尾啓助　士、松本誠藏

西南征討の役忠死者

○南村山郡

東京鎮臺軍曹　增戸光彦　仙臺鎮臺兵　畔柳莊太郎
仙臺鎮臺兵　古川藤四郎　四等巡査心得　福田實
仙臺鎮臺兵　須藤長藏　同　山口留吉

○東村山郡

仙臺鎮臺兵　深瀨庄兵衛　近衛兵　渡邊源藏　同　多田五郎八
仙臺鎮臺兵　吉田又吉　同　志田源治　同　今野莊七

○西村山郡

近衛兵　森岡春吉　同　大泉祐藏　仙臺鎮臺兵　志田里次
同　伊藤榮吉　同　高橋三五郎　同　兵庫菊次

○北村山郡

仙臺鎮臺兵　伊藤辰藏　三等巡査心得　神沼勝藏
同　殘間榮太郎　四等巡査心得　丸山喜代治
同　大內源八

○最上郡

管部補心得　大條橘左衛門　同　林榮太郎　同　佐々木久米太郎
同　廣瀨政吉　同　矢口善八　仙臺鎮臺兵　田中重作
同　永澤彦治　近衛兵　伊藤永助
同　阿部長三郎
仙臺鎮臺兵　青柳丑吉

○東田川郡

仙臺鎮臺兵 五十嵐慶治　同　菅原武吉　青森鎮臺兵 金内米藏

仙臺鎮臺兵 伊藤安次郎

○西田川郡

陸軍大尉 北楯利盛　陸軍大尉 都築正順　陸軍中尉 高坂知次

陸軍中尉 助川正敬　陸軍少尉 鱸成信　陸軍少尉 宮坂信任

陸軍少尉 今泉直門　陸軍少尉試補 萬年正賢　熊本鎮臺伍長 中澤保定

高崎營所軍曹 弭間吉憲　東京鎮臺軍曹 押切篤道　東京鎮臺伍長 岡長明遠

東京鎮臺軍曹 志田則次　同軍曹心得 和田金七郎　近衛兵伍長 石井令明

東京鎮臺伍長 池田秀固　同　伊藤壽正　同　山澤信政

名古屋鎮臺伍長 後藤矩員　近衛兵 工藤秀作　近衛兵 菅原道正

第二後備一等卒 渡邊孝　遊撃隊一等兵 金内房清　東京鎮臺兵 五十嵐秀一

近衛兵 前田利正　同　山田壽水　同　池田勝友

同　中村一精　遊撃隊一等卒 小國守久　三等巡査 萬年久利

同　加藤重輝　同　竹内元次　同　成田減藏

同　齋藤重德　同　大場八郎兵衛

○飽海郡

近衛兵 佐藤竹次　仙臺鎮臺兵 五十嵐留藏　同　土井金助

同　齊藤東次郎　同　小野寺寅吉　遊撃隊一等卒 齊藤宣武

○西置賜郡

二等巡査心得 高橋勇　四等巡査心得 平田源次郎　東京鎮臺兵 新納豐吉

○東置賜郡

三等巡査 西牧要助　四等巡査心得 齊藤文治

○南置賜郡

陸軍少佐 上野忠恕　陸軍大尉 小川盈進　陸軍少尉 渡邊忠國

陸軍少尉試補 丸山茂達　三等大警部心得 千坂親延　警部補心得 富永猪三郎

東京鎮臺曹長 岡盛道　近衛曹長 今泉競　熊本鎮臺軍曹 市川正義

近衛軍曹 五十嵐義隆　陸軍軍曹 丸山長昌　東京鎮臺軍曹 小黑吉武

熊本鎮臺軍曹 關谷政良
同軍曹代理 星野義晃
大阪鎮臺伍長 大竹政直
同 渡邊忠篤
同 林英男
同 草刈忠順
同 佐藤鐵藏
同軍曹 飲酒盃政治
二等巡査 倉島忠藏
同 朝倉源太
同 林邊喜平
同 中村久太郎
三等巡査心得 大瀧與市

近衛軍曹 玉田輝政
熊本鎮臺軍曹 富永吉尙
名古屋鎮臺伍長 高津義信
近衛伍長 萬代吉直
近衛伍長 吉原秀雅
同 小田切佳章
同 邊吉政
東京鎮臺兵 横山秀長
同 福島賴之
四等巡査 佐伯兵次
同 木村伊代次
宇都宮營所伍長 頂田石之助
召募巡査 梅津甚太郎

東京鎮臺軍曹 倉石信義
近衛伍長 河野重氏
東京鎮臺伍長 大島吉實
近衛兵 今井信則
近衛兵 中村譽左右
同 桑原昇
遊撃隊 片岡篤次郎
二等巡査 石栗雄藏
三等巡査心得 風間秀太
四等巡査心得 舟岡萬次郎
同 色麻龜治
仙臺鎮臺兵 佐藤太七

孝養貞節義僕奇特者（原本、明治元年以前、明治九年前並に後の三に區分す、今、明治九年を以て區劃類類す）

明治九年以前

○南村山郡

山形十日町 青山治右衛門
同 町山口半兵衛妻セイ

○東村山郡

天童村 相澤玉藏
漆山村 白石金平

○西村山郡

大谷村 白田外記妻スミ
清助新田 加藤藤作
同人妻フヨ
岩根澤村 片倉專藏

○最上郡

飛田村 池田甚作
同人妻ケサ

○飽海郡

酒田上中町 甚四郎妻ミヨ
莊泉村 眞島留治
豐原村 茂木辰次郎
同 村阿部藤吉
同 村齋藤孫治
保岡村 五十嵐與三郎

藤塚村　堀　市郎右衛門　保岡村　兵藤孫七　同　村　伊藤治助
酒田新町　權　助　酒田米屋町　彌　助　吹浦村　石井戌女
櫻林村　小松原與右衛門　城輪村　藤井サタ　豐川村　佐藤才三郎
吉田村　池田兵右衛門　同人妻冬　莊泉村　土門與惣兵衛
藤塚村　堀　作右衛門　北中野俣村　佐藤長右衛門　南中野俣村　佐藤三四郎

○東田川郡

平杉村　五十嵐小右衛門　渡前村　齋藤貞七　同　村　齊藤マツ
同　村　齋藤吉内　藤島村　高橋敬庵　押切新田　吉永長次郎
余目村　後藤長助　清川村　門脇專太郎　本郷村　難波善之助

○西田川郡

鶴岡鳥居町　神保晃正　同　町　星川清晃　同　町　志田初江女
同　町　山邊仲代女　同　町　鈴木政右工門　新　町　菅原藤兵衛
大海町　佐藤清野女　紙漉町　矢作時圓　同　町　佐藤金藏
同　町　野澤元代女　高　町　三浦春野女　日和町　齋藤榮藏

南　町　村田三郎治　宮ノ浦村　阿部長助　八坂町　松浦梅女
寶　町　飯塚長内　同　町　鈴木文右衛門　田川湯村　本間勘女
一日市町　桝本芳兵衛　同人妻春　同　町　助川宇兵衛
同　町　加藤正之　同　町　結城久女　紙漉町　齋藤儀兵衛
榮　町　本多治郎兵衛　同人妻竹代　紙漉町　長谷川連
水澤村　長谷新左衛門　番田村　福原榮女　紙漉町　安藤良寧
賀島町　畑長五郎　幸　町　山本清野

○西置賜郡

瀧野村　ハヤ　畔藤村　善四郎　西田尻村　長助
田尻村　九川代助　東田尻村　ヨシ　横越村　フユ
畔藤村　傳次郎　同人妻ツル　小國町村　長岡リヤ
同　村　ミノ　同　村　野澤チヨ　同　村　ヒテ
同　村　野澤カン　小玉川村　舟山新四郎　山口村　管　フテ
小出村　源四郎　同人妻ヤヨ　同　村　久兵衛

同村横澤藤助　手ノ子村林次　同村ヒサ
萩生村ヌヱ　西高玉村橋本イノ　東高玉村別部ノヱ
小國町村スヱ　白子澤村彌助　萩野村與七
同人妻ナツ　小國町村伊藤茂兵衛　同人妻キヱ
泉村鈴木兵彌　添川村小松千代　平山村土屋茂七
同人妻キン　平山村青木善七　針生村金七郎兵衛
高嶺村長三郎　同村今朝次　同人妻ツル
小國町村丹秀太郎

○東置賜郡

歌丸村梅津カツ　同村貴清曾仙　黒川村安藤ホノ
吉田村齋藤トク　同村清野八百太　福澤村大富ノマ
津久茂村竹田チヨ　福澤村小池市三郎　津久茂村二宮桂庵
同人妻ヨシ　中山村落合カネ　同村富田ハル
砂塚村佐藤七右衛門　同人妻ムメノ　中山村シケ

砂塚村佐藤ミネ　和田村近野ツキ　宮内村佐野カノ
同村羽田サト　同村粟野カン　同村磯野恒德
西大塚村飯塚孝吉　梨郷村舟山レン　竹原村後藤陸次
上伊佐澤村鈴木兵次郎　同村鈴木儀兵衛　同村布施長兵衛
荘村齋藤ヒサ　高山村御供イノ　高畠村安藤サト
今泉村渡邊キン　河井村鈴木セン　高梨村遠藤ヨシ
下小松村渡邊キヱ　石岡村竹股彌右衛門　泉岡村菅野平吉
同人妻キヌ　鹽森村中川甚右衛門　同村佐藤東兵衛
洲島村和田總兵衛　同人妻ヤヱ　同村金澤龜吉
同村高橋龜彌　同人妻マサ　竹井村黑田マサ
同村新藤久右衛門　大塚村高橋幸之進　同人妻ヨノ
同村那須圓助　同人妻フミ　大塚村後藤イシ
川井村堤シメ　同村加藤與四郎　堀金村嵐田ミホ
同村五十嵐マサ　同村五十嵐源三郎　同人妻ヤス

宮崎村　須藤ホノ　川井村　金子平内　高畠村　高崎庄助
伊佐澤村　黑澤佐和次　同人弟　伊藤次　同　村　坂田秀彌
吉田村　伊藤ワキ　赤湯村　小關タケ　砂塚村　渡部熊次郎
同　村　島崎忠兵衛　西大塚村　保科惣左衛門　金山村　菊地六郎次
同　村　渡邊德左衛門　同　村　菊地嘉吉

○南置賜郡

山上裏町　片平イノ　下小菅村　嵐田サン　粡　町　小川フネ
福田町　内須川新左衛門　同　町　市川庄藏　同人妻ヤヱ
同　町　近藤了助　東　町　金澤文太郎　同　町　黑田キソ
同　町　遠藤寛左衛門　福田町　高橋市彌　同　町　豬口サト
無足町　山崎官作　同人養母　シカ　同　町　山崎又藏
梶　町　國分演吉　御小者町　渡部關右衛門　同人妻マイ
新　町　渡部良藏　關東町　豐野五三郎　川井小路　五明長藏
鍛冶町　高木萬五郎　川井小路　小林ツヤ　桶屋町　村上德五郎

川井小路　遠藤次右衛門　同人妻ミヨ　鍛冶町　大友清太郎
割出町　海野久吉　北寺町　西居龍幢　川井小路　新國倉次
同　町　高橋吉左衛門　同人妻シケ　矢來町　皆川速水
館山花仙町　小幡文左衛門　同　町　石井秀次　下矢來町　新國貞吉
上矢來町　近藤宗助　館山上横町　朝岡仲作　南新町　追泉郁太郎
新　町　加藤ミツ　上矢來町　井上孫四郎　同　町　小見一郎
福田町　今村クニ　立　町　一志ツネ　同　町　古山シケ
粡　町　佐藤ツル　同　町　進藤安兵衛　同　町　中村與兵衛
銅屋町　高梨フヂ　同　町　佐々木伊七　同人妻セン
同　町　太宰惠迪　花澤村　末野モン　古志田村　二宮仁右工門
同人妻イワ　南　町　鈴木要助　同人妻ケン
遠山村　寺島キナ　本五十騎町　楡井敬太郎　花澤村　泉妻元吉
御膳部町　半田カノ　館山口村　遠藤ミヨ　桶屋町　萩野ツマ
粡　町　中村リウ　越後番匠町　片山慶藏　直峯町　高橋鹿藏

御小者町　渡部關右工門　花澤村　土屋金左衛門　膳仲町　櫻井ミヨ
上花澤小國町　吉見次郎太　同人妻クマ　成島町　高野秀助
玉庭町　加藤健次　同人妻サン　木場中町　森谷和次
同人妻トメ　成島町　高橋三郎　元細工町　片山小一郎
寺町西町　渡部吉之助　御廟町　松田七左衛門　同人妻スヘ
元東馬口勞町　渡部登　七軒町　種村周藏　黑川町　大峽三次
福田村　眞島マサ　南町　井上ツネ　南原笹ノ町　西村吉馬
同町　酒井菊治　同人母セヲ　猪苗代町　加藤忠作
同人弟加藤愼一　南原笹ノ町　岡村源五郎　猪苗代町　土橋リノ
大町　伊藤五兵衛　同人妻ヨツ　上花澤片町　篠田キヨ
信濃町　南波彦四郎　同人弟南波忠作　同町　鈴木ヤエ
上花澤仲町　關口仲藏　同人妻ハル　信濃町　小森ハツ
同町　色摩勝太　同町　阿部トミ　南原石垣町　草刈鐵次
同町　鈴木忠和　同人妻ソノ　石垣町　關右衛門

同町　矢島恒藏　同町　中澤虎藏　横堀町　八木東右衛門
同町　曾根ケン　免許町　淺見龜吉　木場中町　青木藤左衛門
上花澤小國町　吉見ヤス　木場中町　森谷トラ　北寺町四ノ町　渡部ツネ
黑川町　大峽ツル　石垣町　關シカ　同町　矢島コノ
大澤村　齋藤四郎右衛門　番匠町　伊藤榮次　笹野村　戸田ハツ
同人養父戸田運彌　同村　高山利惣次　同村　加藤キン　同村　遠藤サノ
同村　高山利惣次　窪倉町　須貝ヨノ　關東町　中島トミ
東寺町　中島清兵衛　同人妻キン　同町　芳賀兵内
同人妻タカ　同町　市川代吉　同人妻マス
東寺町　芳賀與兵衛　同人妻トラ　六十在家町　須貝ヤヨ
窪倉町　須貝アキ　東寺町　小池マサ　下花澤弓町　湯川カヨ
長町　後藤嘉左衛門　同町　井上金太郎　北袋町　佐野左中
同人弟佐野政次　同人妹セン　長町　高橋ツサ
同町　山田次右衛門　同人祖母サト　同人父山田喜六

同人母ヒサ　木五十騎町　山吉ミヤ　關東町　清水サツ

上花澤信濃町　山田キヨ

明治九年以後

○南村山郡

山形小橋町　正木直門　傳村　大江銀四郎　上ノ山十日町　石井シゲ

高湯村　岡崎喜六　山形旅籠町　豐田莊吉　山形鐵砲町　青木吉五郎

上寶澤村　齋藤忠吉　山形七日町　佐藤サタ

○東村山郡

天童　野田ツル　下東山村　鑓水小四郎　下山家村　深瀨忠吉

○西村山郡

箕輪村　佐藤太作　溝延村　井上與四兵衛　同人弟與六

岩木村　堀門七

○北村山郡

川島村　高橋マル

○最上郡

金澤町村　石澤トシ　十日町村　井上キク　新町村　梁澤ケン

野田村　早坂キノ　京塚村　阿部幸吉　上臺村　佐藤和七

泉田村　長沼運太郎

○飽海郡

遊佐町村　堀文悅　遊佐町村　末松道隆　遊佐町村　佐藤意泉

米島村　池田辰治　豐岡村　阿部逸致　米島村　石黑鶴治

增穗村　石山清藏　同人妻龜代　同　村　齋藤久米治

酒田山王堂町　石本佐吉　本館村　富樫文吉

同人妻梨代

豐川村　土井長九郎　岩川村　小野寺龜治　同　村　菅原駒次

小京田村　池田宇兵衛　北澤村　小松仲代　酒田新町　本間孫助

遊佐町村　末松千代　同　村　菅原千代　泥澤村　池田マン

漆曾根村　伊藤惣吉　麓　村　三船トミ　砂越村　佐藤トヨノ

藤崎村　佐藤初藏　藤塚村　堀　貞　本川村　佐藤岩治

庄泉村　眞島淺次　大久保村　池田宇之太　江池村　石垣ハツノ
中野曾根村　鈴木與兵衛　上下北俣村　前田ハル　宮田村　高橋傳助
牧曾根村　鈴木長太　新堀村　阿部太郎治

○東田川郡

余目村　足達清治郎　新屋敷村　菅原イワ　前田野目村　高橋龜治
上藤島村　阿部孝之助　常萬村　難波多市　科澤村　齋藤三吉
藤島村　日向龜吉　宮曾根村　上野ツル　前田野目村　日下部萬吉

○西田川郡

鶴岡與力町　三浦菊浦　同最上町　渡部源藏　同人妻トミ
大山町　羽根田與次兵衛

○西置賜郡

椿村　長谷川常吉　手ノ子村　渡部ヤヨ　畔藤村　紺野六郎兵衛
同人妻ヨネ　時庭村　横澤ヌイ　瀧野村　竹田ヨネ
畔藤村　小形味兵衛　同人妻ヨシ　小國小桜町村　池トヨ

同村　伊藤權左衛門　同人妻ナツ　同村　今ハツ
沼澤村　大河原熊藏　同人妻ミヤ　廣野村　新野ヒヲ
石那田村　塚原長太郎　同人妻キヨ　黑鴨村　佐藤秀詮
同人妻ユキ　鮎貝村　樋口キク　田尻村　丸川伊藏
白兎村　長谷部ヤス　椿村　加藤佐四郎　小玉川村　渡邊藤八
中村　長岡作左衛門　小國小桜町村　東ルン　手ノ子村　横山エイ
五味澤村　齋藤兵藏　同人妻ミエ　山口村　高木カン
瀧野澤村　齋藤タニ　五十川村　大道寺シユン　泉村　平田タカ
石那田村　新田省三郎　高峯村　井上鳥藏　佐ノ原村　五十嵐キヌ
廣野村　小笠原イシ　宮村　新野チウ　松岡村　後藤モト
石那田村　小松源四郎　同人妻ソノ

○東置賜郡

露橋村　黑澤直吉　西大塚村　飯塚彌五郎　砂塚村　佐藤タケ
梨郷村　高橋セキ　小瀧村　江口キリ　鍋田村　渡部與惣次

同人妻ケサ　福澤村　高橋マツ　下伊佐澤村　増田龜五郎
西大塚村　梅津圓助　川井村　鈴木キエ　同　村　鈴木ヤオ
宮内村　佐藤忠太　今泉村　安部キン　洲島村　小沼三右衛門
同人妻イシ　上伊佐澤村　鈴木與一兵衛　同人妻ツキ
莅　村　佐藤シケ　夏刈村　山口トマ　淺川村　油井助右衛門
吉田村　島津マツ　池里村　高橋ヤエ　黑川村　須貝吉三郎
門東村　伊藤與宗　中ノ目村　山口イシ　黑川村　安藤平太郎
高山村　御供德治　萩生田村　鈴木清藏　三間通村　澁谷利右衛門

○南置賜郡

南　町　山田ナカ　遠山村　鈴木兵五郎　同人妻モヨ
同　村　若月熊次　同人妻ミネ　福田村　岩井リソ
南　原　下恒惇一郎　同人妻ヤエ　矢來町　山田タケ
成島町　今成ヤス　南原新町　南波初太郎　同人妻マサ
馬場町　岡田タミ　立　町　落合又七　同　町　西村吉兵衛

同人妻ヨシ　大舟村　大木マワ　古志田村　鈴木孝四郎
上小菅村　仲山恒右衛門　本五十騎町　百束デウ　西土手ノ内町　利根川速水
上矢來町　秋山レン　同人妹ツキ　鍛冶町　高木源五郎
同人妻ヨシ　免許町　宍戸要太郎　同人妻ヨノ
馬場町　八町ハル　上花澤信濃町　須藤イチ　李山村　和地ナヘ

有位者名簿

西田川郡鶴岡　從五位　酒井忠寶
同　馬場町　從六位　松平親懷
南置賜郡上花澤　從六位　梶尾重興
西村山郡長　從六位　藤田健
鶴岡家中新町　正七位　菅實秀
同　鷹匠町　正七位　寺内清久
南置賜郡代官町　正七位　高山政康
同元東馬口勞町　從七位　大峽政貞

鶴岡興力町　從七位　赤澤常純
同　天神町　正八位　鹿野良哉
南置賜郡北谷地小路　正八位　大竹元乘
同　坐頭町　正八位　伊藤祐順
帶勳者名簿
鶴岡家中新町　勳六等正八位　加藤景重
南置賜郡關東町　勳六等正八位　蓮田秀應
山形縣七等警部　勳七等　厚地兼義

以下七十七名略ス

六級以上敎導職人名官

山形鐵砲町縣社八幡神社祠官　權少敎正　佐伯菅雄
鶴岡代官町平民　權少敎正　照井長柄
南置賜郡林泉寺住職　權少敎正　淺間俊英
山形七日町光明寺住職　少敎正　河野覺阿

山形縣職員並監獄署職員巡査全管內郡吏戶長人員
總計千四百八拾壹人
但內參拾壹人兼官並兼務

內譯

奏任官　貳人
判任官　貳百七拾六人但內拾七人兼官

內譯

郡長　拾壹人但內壹人兼官
屬　八拾人
警部　參拾六人但內五人兼官
郡書記　百四拾貳人但內五人兼官
典獄　壹人但兼官
監獄書記　五人但兼官
監獄看守長　壹人

御用掛準判任　貳拾五人但内壹人兼務
巡査　三百七拾三人
等外　三拾人
戸長　五百七拾壹人
傭　八拾貳人但内拾三人兼務
郡役所筆生　四拾八人
監獄看守　貳拾九人
監督　四人
押丁　四拾人
女監取締　壹人

左に當時の縣官六等屬以上を載す

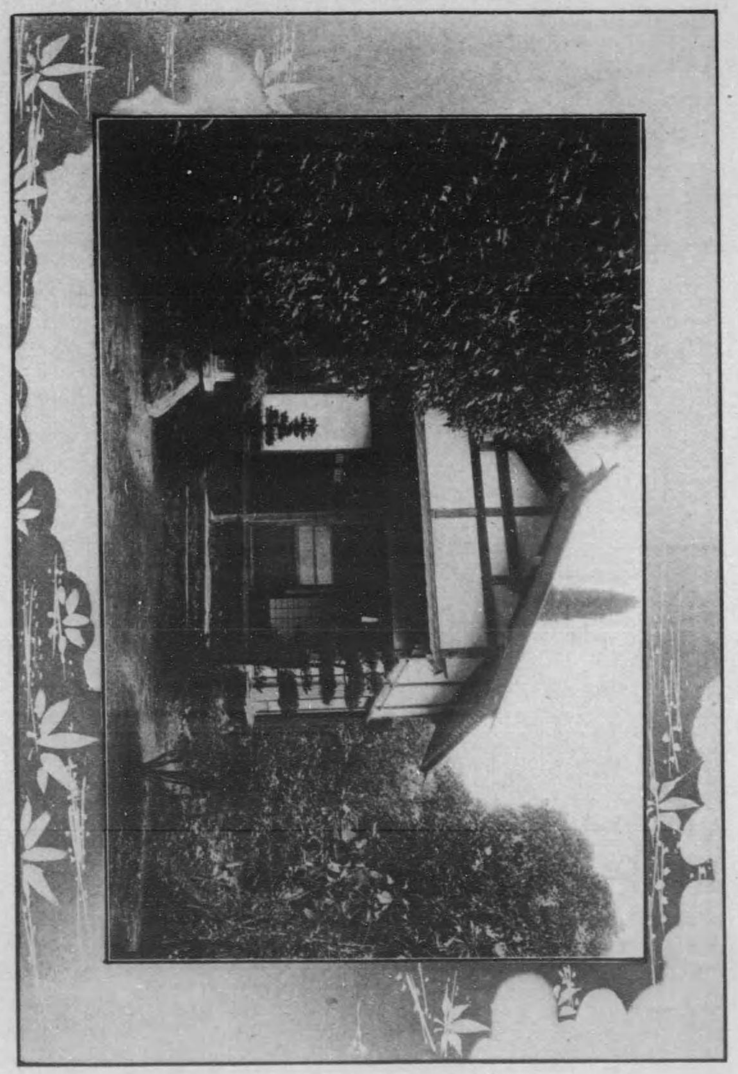
令　從五位　三島通庸
大書記官　從六位　深津無一
一等屬

二等屬　村井元善　貴島宰輔　高木秀明
筒井明俊
奥野弦　久留清隆　親良
海老名季昌　原口祐之
三等屬　小倉信宜　河島清
四等屬　東悉　北川良愼　北野直壯
五等屬　海江田綱範　田口孝昌　荒賀直哉
平川勝伴　赤谷信敏
吉高謙邦　多田誠成
六等屬

斗ヶ澤　汪　海上胤平　山田精一
横山知定　佐藤信義　柳瀬易義
橋本吉十郎　原　純　鶴間重正
島崎友連　新穂　一　山宮咸一
加藤英利

第十節　山形より高畠行在まで（第十日、十月一日）

秋氣冷峭朝霧山を罩む。午前七時卅分、山形　御發輦。鹵簿南館村吉原村を經て、坂卷に御着。大石源次郎が家に御小休あり。此の地酢川に枕し、東に龍山千歳山を望み、西に月山、朝日嶽を眺むべく、風景佳し、侍臣と形勢を指點したまふ。酢川に石橋あり、常盤橋と名づく。明治十一年四月起工し、同年九月竣成せしものにして、長さ百九十二尺、假月形を爲くること五、工作精緻、徒を役すること七萬人、工費一萬五千圓、その資みな吏民の義捐に成れりと云ふ。橋は後年洪水の害を被り毀損すといへども、當時に在りて一偉觀たりき。熊次郎及御小休所修築



（内閣遺蹟、澤藻）所　休　小　御

者黒田玄仙等に金を賜ふ。

午前十時墨澤村渡邊久右衛門が家に御小休あらせたまふ。久右衛門、乃ち農僕をして常裝のまゝ、御小休所後方の田に於て、稻を刈らしめ、又蔬菜を陳列して天覽に供ふ。その中に冬瓜の重さ二貫五百匁に及べるものあり。主上、これを御手にして覽そなはしたまふと云ふ。南瓜、長薯、八頭、栗、里芋等、冬瓜と共に宮内省に買上られ。久右衛門に木盃並金を賜ふ。左大臣親王、また令旨を賜うて久右衛門が勤儉質朴を賞せらる。

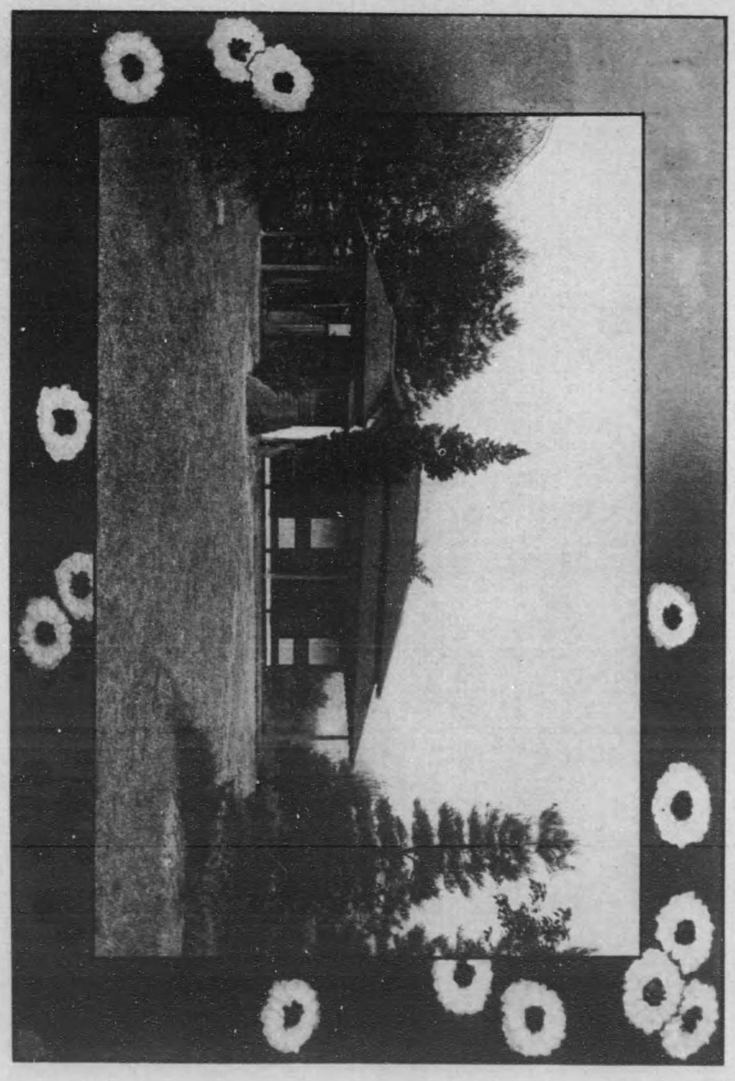
車駕早坂新道を登りて、午前十時廿分上ノ山驛地内樹苗園に著きたまふ。本園創立の年時、及將來保立の目的等　御垂問あり。園の廣さ約三萬坪、杉、樟、扁柏、胡桃、公孫樹、落葉松、五葉松等の苗を栽植す。蓋し山形縣の地方、氣候寒烈、樹木の成長遲々たり、加ふるに近年濫伐の弊に陷り、禿山多し。この故に樹苗をここに養ひ、その長ずるを待つて、縣下各地に移植せんとするなり。その仔細を具上しければ、養苗園の名を賜ひ、且つ宮内大輔杉孫七郎をして、題額の字を書せしめて下し賜はる。地は酢川の上流なる碧澗に臨み、斷崖千尺、幽致最も多し。午前十

一時四十分上ノ山に御着、十日町河合長六が家を行在となし、之に金帛を賜ふ。長六この地に產する松茸を献せり。

戊辰の役及明治十年西南役に戰死したる者の遺族に、各金を賜ひて祭祀を爲さしめ、八十年以上の者、百十九名に亦各金を賜ふ。上ノ山明新學校敎員生徒等祝文を上る。

上ノ山は封建の時、山城守松平信庸が居城たり。地に溫泉涌出するを以て、來浴者歲々萬を下らず、驛邑の滋潤を爲す。御巡幸當時の戶數八百戶、人口三千九百二十餘。近郊に見目原、牧野原開墾地あり。上ノ山士族澤部儀平太等の開拓する所なり。參議大隈重信、命を奉じて巡視し、その狀を復奏す。金を賜うて開拓の功を賞したまふ。

午後零時卅分上ノ山御發輦。東置賜郡界に臨ませたまへば、郡吏學校生徒等敬みて奉迎すること例の如し。午後二時十分中山驛龍雲寺に、三時十分川樋村小學校に御小休あり。四時十分赤湯驛に着きたまふ。此の地また溫泉あるを以て著聞す。石岡要藏が家に、御小休あらせたまひ、銀盃竝金を賜ふ。書記官深



休　小　御　所（上山驛音圖）

津無一、縣令に代りて　聖駕に扈し、當時の事を詳にす。後爲めにこれが榮を記して、石に鐫せしむ。

午後四時廿五分赤湯驛を發したまふ。これより高畠驛に至るの間、凡二里、大道に清沙を布き、道側に幣帛酒饌を列ねて、男女地上に跪拜す。その朴實の情想見るに足れり、午後五時十分高畠驛着御、東置賜郡役所を以て行在となしたまふ。驛內當時の戶數二百六十、人口千三百四十餘、公立屋代小學校生徒二百六十餘なりき。

行在所を距る一町餘の地に於て、村民男女五十餘名、農裝して稻を刈り、之を簸し之を簸し精米を作るの終始を爲し、また餅數萬箇を投じて拜觀者をして拾はしめ、田家豐稔を祝ふ狀に擬して　御覽に供ふ。夜、戶々球燈數十百を繫ぎて高く竹竿の頭に揭げ、また烟火を揚ぐ。その光、白晝の如し。

この地、舊時屋代鄉と云ふ。鄉民甞て藩吏を怨みて騷擾せしことあり、貞泉寺の僧諦忍と云ふ者、頗る衆人の信仰を得るを以て、兩間を和解す。朝廷諦忍が善行多きを聞しめされ、次の日米澤行在所に召して恩賜の命あり。

一、白羽二重　壹疋　　高畑村二拾壹番地曹洞宗貞泉寺住職　富樫諦忍

其方儀窮民ヲ賑恤シ闔村ノ爭論ヲ和解シ又心ヲ教育ニ用ヒ首唱シテ學校ヲ興シ候段奇特ノ事ニ候依テ爲其賞白羽二重壹疋下賜候事

明治十四年十月二日　　左大臣　熾仁親王

本郡萩村九番地平民山口藤太郎の母、年百四歲、これに綿を賜ふ。

萩村九番地平民山口藤太郎母　山口ミツ　百四年九ヶ月

一御綿　三把

右ハ百歲以上ニ付被成下

この日恩賜の分を左に錄す。

一金拾五圓　御小休所　南村山郡坂巻　大石源次郎

一金百七拾圓　同所修繕　南村山郡山形　黑田玄仙外有志の者

一金貳圓　御厩課　横山ミナ

一金貳圓　騎兵休所　前田善七

一御紋付三組木盃　御小休所　黑澤村　渡部久右衞門

一金百圓

一白羽二重　壹疋　御畫行在所　上ノ山驛　河合長六

一金五拾圓

一金五拾圓　御小休所　東置賜郡　中山驛龍雲寺

一金百三拾圓　同所修繕ニ付　中山驛　佐藤孫七外百三十五名

一金貳圓　御厩課休所　同村　富田源作

一金貳圓　騎兵休所　同村　廣瀨嘉太郎

一金拾五圓　御小休所　東置賜郡　川樋小學校

一金百三拾圓　同所修繕人　同村　鈴木七右衞門外三十七名

一御紋付三組銀盃　御小休所　赤湯驛　石岡要藏

一金百圓

一金五百圓　行在所營繕　東置賜郡內人民

一金五拾圓　行在所　東置賜郡役所

一金貳圓　御板輿置場　岩船諦覺

一金貳圓　御長持置場　細谷善助
一金壹圓　御膳水御用　神保彦藏

行在所略圖を次に載す。

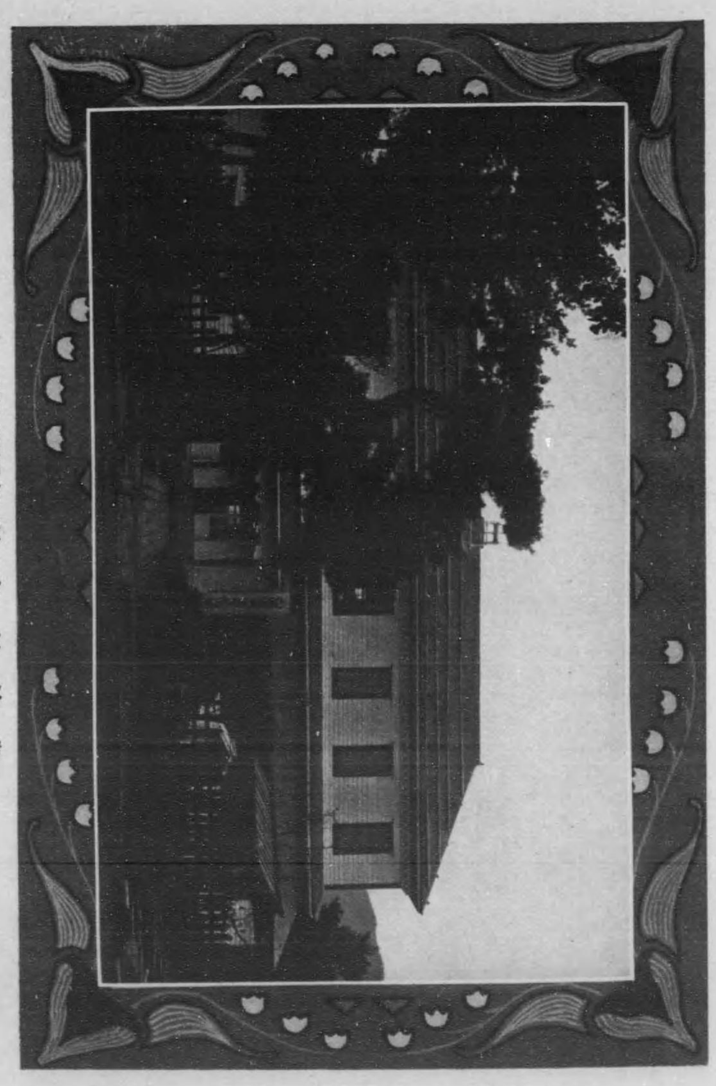
玉座は樓上にありて東面し、疊貳拾貳枚を布き、御次の間は拾八疊を容る。侍從、皇族、大臣の室みな樓上に在り。

近郷泉岡村松岩院を以て非常御立退所となせり。

第十一節　高畠より米澤行在まで（第十一日十月二日）

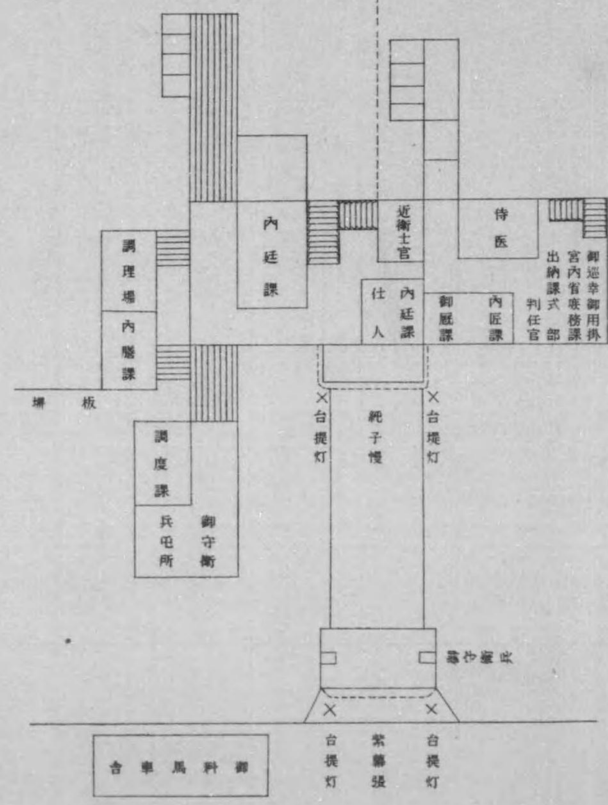
晴。定刻御發輦。屋代學校に臨御す。學校は高畠驛口に在りて屋代川に臨めり。校内に物産、古器等を陳列して御覽に供ふ。後に驛民、碑を校外に建てゝ光榮を錄するもの、現存す。

鹵簿、高畠驛を離れて左し、鹽森村を過ぎて龜岡村に御着。鈴木吉兵衞が宅に御小休あり、金帛を下し賜ふ。村内に大聖寺の古刹あり、寺傳に云ふ、その文珠堂は宣化天皇二年、厩戸皇子の創造したまへるものと。輦道を入ること數丁、石階

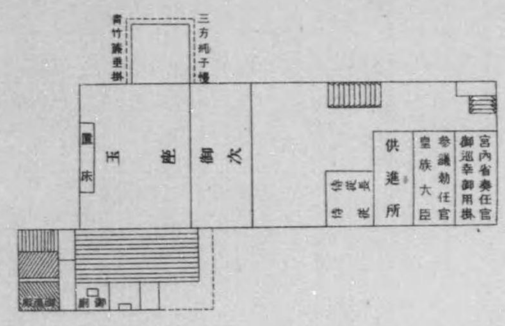


（所役部賜置東）所　在行泊御

（下　階）


御巡幸御用掛
宮内省庶務課
出納課式部
判任官
侍医
近衛士官
内廷課
内匠課
御厩課
内廷課
仕人
内廷課
調理場
内膳課
調度課
御守衛
兵屯所
板塀
台提灯
紙子慢
台提灯
篝火
台提灯
紫幕張
台提灯
御料馬車舎

（上　階）


三方紙子慢
青竹籬垂幕
御次
玉座
重床
宮内省奉任官
御巡幸御用掛
参議勅任官
皇族大臣
供進所
東宮
宮内省
御厨
御膳所

數百級、老杉森々たり。左大臣親王、大隈參議、杉宮內大輔等こゝに過ぎらる。

南行二里にして川井村あり。午前十時、堤忠右工門が家に憩はせたまひ、又、金帛を賜ふ。時に農女六十名、稻を刈りて　御覽に供へり。車駕南して羽黑川を渡りたまふ。其の水源栗子山より發し、北流して最上川に會ふものにして東南置賜二郡の境をなし、是を渡れば米澤驛なり。米澤は當時南置賜郡に屬し、市街東西一里十四町、南北三十町、戶數七千七十餘、人口三萬千三百人に過ぎ、公立中學校生徒七十五人、小學校生徒千五百二十餘人、舊諸侯の時、彈正大弼上杉齊憲の城下たり。齊憲の曾祖治憲、聰明にして下を愛撫し、また學を好み、細井德民を聘して賓師と爲し、學館を興して、仁義を講明し、治績大に著はれ、諸侯中の名君たり。嘗て衆士に諭して、文武を講習する暇には、力めて農桑織紝に從事せしめ、及び儉素に居らしめき。これにより士民共に富み、また學術を勵みて、造詣あるもの輩出し、餘風延きて今に及ぶ。

午後一時四十分　車駕行在所南置賜郡役所に着御あらせたまふ。市の西方、館山御廟町法音寺を非常御立退所となす。卽ち侍從東園基愛を勅使として縣

社上杉神社に祭幣金貳拾五圓を賜ひぬ。上杉神社は舊城趾たる公園境内に在りて藩祖上杉謙信竝に治憲を祀る。

午後二時五拾分、興讓學校に臨幸したまふ。學務委員湯野川忠國、棚橋方英、巡校掛都築祐吉、近新二郎、校長代理鑪信正各教員等門外に奉迎す。大書記官深津無一、先導したてまつりて三階の便殿に著御。次ぎて廣間に於て中學校生野呂辰藏が日本外史豐臣氏寄命託孤の章、小學生宇佐美勝夫が日本史略醍醐天皇寒夜脱衣の章を講ずるを聞召さる。首座教員安部常五郎祝文を上る。各教場御巡覽あらせられ、物産織物場にて紅女が機織するを御覽あり。還御の後、教員生徒等に酒饌料を賜ふ。

次ぎて福島裁判所米澤支廳に臨御し、更に館山製糸場に幸したまふ。製糸場は明治九年、上杉齊憲舊藩士の授産のために金三萬圓を與へ、内務卿大久保利通の勸を容れ、上州の富岡、岩代の二本松に法を採りて、製糸器械を設備せしめしものなり。車駕臨御したまひて、上杉齊憲及社長堀尾重興を御前に召され、左大臣親王をして　聖旨を傳へしめ、御滿足に被「思召」に付猶精々勉勵可「致旨を申渡さ

れたまふ。重興、謹んで繰糸壹箱五結を獻じ、添ふるに和歌を以てす。

乙女らがひき出す糸の細くとも國のたからをつなぎとゞめん

場内廣さ六千坪、覓を設けて溪流を引き、其の長さ七十間、水力を利用して繰車を運轉せしむ。業を執るもの男三十三人、女百六十八人なり。

夕刻、行在に還御。齊憲名刀二口を獻ず。また上杉一家の寶器、古書畫、其他郡内物産を陳ねて御覽に供へり。この日館山に幸したまへる途上、燒亡の家あるを覽そなはし、憫みて金を賜ひぬ。

行在所に列の品目、左の如し。

一糸織	五十七疋	一、精好袴地	三反
一、八丈縞	二十四反	一、數寄屋織	六反
一、節糸織	六十八疋	一、紬織	十疋
一、男帶地	三十六筋	一、女帶地	十六筋
一、本練縫糸	壹貫四百九十九匁	一、機械取生糸	一箱

一、手取生糸　貳百匁
一、三味線糸　三箱
一、魚釣糸　壹箱
一、將棊駒　貳箱
一、繭陳平　四個
以上物產
一、山水之畫　二幅　菅原元道畫
一、盤　胴　壹個　鈴木善兵衞製
上杉謙信着料品
一、具　足　二　領
一、烏帽子　三
一、鎖襟卷　一
是は謙信、初參內之節
後奈良帝より拜領

一、水筆　拾箱
一、琴糸　二箱
一、壺糸　同
一、仁藏編笠　四個
一、栗子隧道之畫　二幅　濱崎木鱗畫
一、鐵　瓶　同　同人製
一、兜　三
一、鎖頭巾　一
一、瓜實の御劍　一口

一、五虎退吉光の御脇差　一口
是は同人、再參內の節、
正親町帝より拜領
一、軍　團　四本
一、采　配　三本
一、五挺の鎗
一、毘の字軍旗　同
一、金地日の丸馬印
一、春日盃　貳個
一、守　刀　義弘銘
一、同　一文字則房銘
一、同　光忠銘
一、同　一文字助村、
一、同　備前大兼光銘

一、軍　扇　貳本
一、般若之太刀　靑江守次の銘あり
一、紺地日の丸軍旗壹流
一、金地の扇馬印
一、小　劍　壹振
一、茶　碗　貳個
一、大太刀　正守銘
一、同　備前長船重眞銘
一、同　一文字助平銘
一、同　粟田口大國綱銘

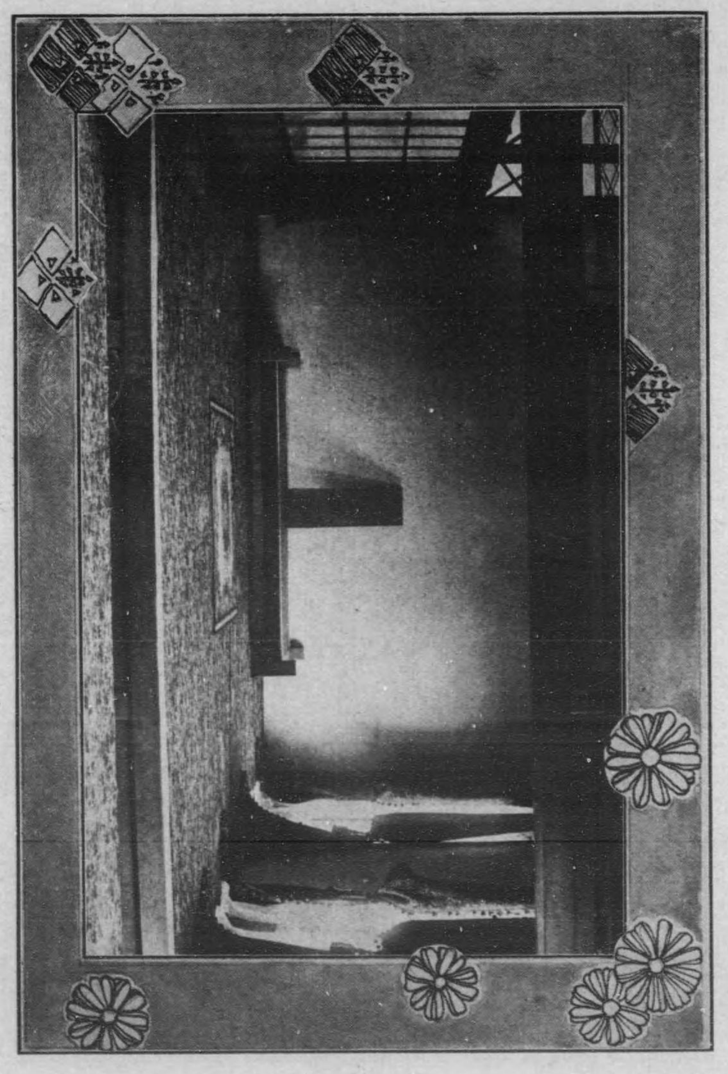
一、同　江原元重銘
一、同　片山一文字
一、同　備前倫光銘
一、同　備前盛重銘
一、唐織端縫合羽織
一、古渡引廻し合羽
一、紙地の羽織
一、引　補
一、雲龍之羽織
一、鞭
一、同陣羽織
一、綾織總散し羽織
一、朝嵐の琵琶
一、紫縮緬雀紋陣幕
一、同　薙刀作一文字則包銘
一、同　備前元重銘
一、同　越後行光銘
一、唐の頭纏掉共
一、白毛羽織
一、黄地墨畫羽織
一、猩々緋の陣羽織
一、緞子の袴
一、皮立付
一、赤地織之羽織
一、緋羅紗羽織
一、雀紋散し羽織　織田信長より謙信に贈れるもの
一、金屏風　一雙　織田信長より謙信に贈れるもの
一、管領上杉憲政具足

一、上杉景勝具足
一、直江山城守具足
一、同山てうまう刀
右謙信差料
一、白鞆雲生の刀
一、同　三ヶ月の刀　貞　宗
一、拵付　兼光
右謙信差料
一、拵付　備前三郎國宗
一、かくれみの神息刀、筑前住人正恒
一、來國行
一、小かくし吉廣
一、備前光長拵付
右景勝差料
一、上杉家禮式具足
一、白鞆兼光の刀
一、高木長光(拵付長光)
一、同　姫霧の刀　一文字
一、同　唐かくし刀　長谷部國信
一、衞府の大刀、　長光
一、とくよう　守家
一、鐵砲切助實
一、水神切兼光

一、備前國宗杖　右謙信所用
一、守家
一、上州景重　右景勝差料
一、劍　唐物無銘六寸五分
一、大和行平の劍
一、火車切廣光　同
一、吉　光　同
一、來國次　同
一、正宗拵付　同
一、同　同　助吉
一、同　一文字則房
一、鎗青貝作　三　本
一、宗近
一、同　無銘
一、備前三郎國宗　脇　差
一、左文字　同
一、吉　光　同
一、江切及　同
一、薙　刀　一文字則助
一、同　衞　府
一、同　菊桐の金具無銘
一、同黑柄長穗　二　本

一、空海の眞筆　軸　物
一、明割書　一　軸
一、甚鞍覆
一、楊貴妃茶壺
一、雷報轡鐙
一、刀　盆　二　通
以上、上杉茂憲所藏出陳
一、天國の刀　中條清資藏
一、長光刀　紫屋又三郎藏
一、織田信長書　大河原辰次郎藏
一、小夜嵐の笛
一、唐牛鞍　壹　つ
一、後花園院の御製
この日の恩賜を左に錄す。
一、正宗の內幕
一、六賴の兜
一、混沌釜
一、千利休茶杓
一、堆木香合　三　器
一、同　近藤誠一郎藏
一、賴朝感狀　土橋秀榮藏
一、宋徽宗帝畫鴛鴦の圖　山浦彌三郎藏
一、星見羅漢の畫
一、尊圓親王の筆　宗津江淸一　同

一、白羽二重　壹疋　御小休所　龜岡村　鈴木吉兵衛
一、金貳拾圓　御厩課休所　同村　齋藤榮吉
一、金貳圓　近衞騎兵休所　同村　鈴木圓藏
一、白羽二重　壹疋　御小休所　川井村　堺　忠右衞門
一、金貳拾圓　御厩課休所　同村　宮島駒藏
一、金貳圓　騎兵休所　同村　伊藤角兵衞
一、金五拾錢　御膳水御用　同村　金子甚助
一、金貳拾貳圓五拾錢　興讓學校教員
一、金壹圓五拾錢　同校生徒野呂辰藏
一、金壹圓　同　宇佐美勝夫
一、金五拾圓　館山製絲場
一、金三百五拾圓　米澤行在所修繕人　米澤有志の者
一、金七拾五圓　行在所　南置賜郡役所
一、金三圓　非常御立退場　法音寺



（南置賜郡役所）　御行在泊所

一、金三圓　　御板輿置場　　下　政　恒
一、金壹圓五拾錢　　御膳水御用　　仲間町　坂　岩五郎

第十二節　米澤より福島行在まで（第十二日十月三日）

天陰る、午前六時、行在に於て有位者正七位高山政康、伊藤祐順、敎導職六級以上の者、及び帶勳者に謁を賜ふ。六時廿分御發輦。御馬車に召す。松河に架けたる橋を渡らせ給ひ、其より東南壹里餘にして桑山村字觀音原にて　御小休あり。此地、新道を開き、此の時瘢めて落成せるを以て開通式を擧ぐ。乃ち名を賜うて萬世大路といふ。後年、村民相謀り碑石に鐫して榮を記し、村名を萬世と改む。

午前八時廿分、太平坂を過ぎたまひて山上村地內苅安原に御小休せさせたまふ。桑山村を距ること壹里三十町なり。苅安原より御板輿に御したまひ　劒璽は別に渡御あらせたまふ。行くこと半里にして苅安隧道あり。その長三十六間、洞外に新道開鑿事務所を置く。更に廿一町にして瀧の澤に着かせたまふ。茂樹幽邃溪流二派に分れて各石橋を架けわたす仙寰の如し。溪畔の御小休所

に憩ひたまひぬ。時に午前九時十分。

此より南は所謂栗子山にして、峻坂盤曲し處々に石を疊み柵を樹てて土石の崩潰を防げり。舁夫は力を戮せて御板輿を擁したてまつり、騎兵は手綱を緊めて徐行す。供奉の車百餘乘、丁壯の者數十人これを扶けて上る。山愈高く、路愈急、魚貫して進むこと一里二丁、始めて栗子隧道の口に達す。ここに數間の板屋あり、開鑿吏員の詰所たり、これを午膳を上るところと爲せり。洞口の右傍に小祠を安じ、上杉鷹山、前内務卿大久保利通を合祀す。

縣令三島通庸先發して此處に在り、車駕を奉迎して隧道開通式を行ふ。初め通庸の此の道を開かんとするや適ゝ西南の亂あり、物論洶々、頗る其の擧を沮止す。通庸乃ち大久保内務卿に告ぐるに意衷を以てし、群議を排して斷行し五星霜を閱して遂に能く功を成せり。主上其の功勞を嘉賞したまひ、且つ金を賜ひて開鑿費に加へしめらる。この日朝來、陰天なりしが、この時、雲開き、陽光出で、旭旗風に飜り、烟火空に揚る。開鑿事務所より鏡餅並に梨、栗、林檎、葡萄、山葡萄等壹籠を獻ず。梓山村の農、力田三左衞門と云ふ者また栗、松　を上る。その舊藩

以來の良農なるを聞召したまひて、特に金を賜ひて之を賞せらる。御小休所に隧道油繪額を掲げしが、宮内省權大書記官御沙汰を傳へて御買上ありき。

午後二時御小休所　御發輦隧道を入らせたまふ。供奉數百人前後に扈從す。隧道の長さ四百八十二間、洞内昏黑にして咫尺をも辨ずべからず。乃ち炬火を盛にして駕前を照らしたてまつる、其の光輝煌々たり。隧道を出でたまへば、福縣島令山吉盛典、路左に奉迎して、先導したてまつり、三島通庸は奉送して福島驛の行在に達しぬ。

この日、恩賜の分

一、金參拾五圓　御野立所營築　梓山村　人民有志
一、金貳圓　御厩課休所　瀧野澤　小出德藏
一、金貳圓　騎兵休所　同　今井鐵太郎
一、金五拾錢　御膳水御用　山上村人民
一、金百圓　栗子開鑿事業費の内へ
一、金參圓　梓山村　力田三左衞門

御買上

栗子隧道油繪　此代金拾五圓

十月四日を以て管下興業篤志者に賞を賜へる分、次の如し。

一、金五拾圓　玉野原開墾地　北村山郡林崎村　竹村仙次郎外數名
一、金五拾圓　玉野原疏水數十年盡力者　同　郡　生田十兵衛
一、金貳拾五圓　製鹽開業生産社擔當人　西田川郡鶴岡　榊原十兵衛
一、金貳拾五圓　見目原開墾地　南村山郡上山　澤部儀平太外十二名
一、金貳拾五圓　東根村開墾地　北村山郡東根村　板垣董五郎
一、金貳拾五圓　養蠶製糸篤志者　西置賜郡成田村　佐々木宇右衛門
一、金拾五圓　牧牛首唱者　北村山郡土生田村　平山慶次郎

前古未曾有の盛儀を奉迎し、任務を完くするを得たる當時の縣令三島通庸の榮や多しといふべし。通庸は鹿兒島縣の人、敎部大亜より出でて鶴岡縣令と爲り、明治九年、鶴岡、置賜二縣を廢して山形縣を設置せらるるに及び、更に縣令に任せらる。人と爲り敬神愛國の念に篤く、事に當りて剛毅果決。以爲らく物産を

增殖し、風俗を化するは四境の險を開き、往來を便にするに在りと、鋭意して此に從事す。而して當時の民俗或は舊習に慣れて、謗讟紛生すれども斷々として動かず、四方の道を通じ、行幸を仰ぐに於て便すること尠からず、然れども栗子隧道の如き大工事は我が國未曾有の經營にして、動もすれば崩潰不測の虞なきを保しがたし。縣吏高木秀明主として栗子開鑿の事務に當りしが　車駕通御畢はるや、抃舞して曰く、今日始めて吾が任を完うするを得たりと、匕首を懷に探りて之を出す。當時官吏の苦心、想ふべきなり。

主上、福島より栃木、茨城、埼玉の諸縣を　御通輦あらせたまひて、十月十一日、禁闕に還御したまふ。御巡幸より後、聖化を仰ぎ、皇風に靡きて縣内の敎育、農工、百般の事業、駸々として日々に發達し、以て今日隆盛の域に進むに至りぬ。聖明の威德洵に大なるかな。

下篇　進献詞章及碑銘

第一章　進獻詞章

行幸を歡喜し、祝頌を獻せるもの、縣令三島通庸以下その數太だ多かりしが、散佚して、殘存せるもの幾許もあらず、玆にその一部を收錄す。また以て當時吏民が欽仰措く能はざる情懷を看るに足らん。

山形縣令　三島通庸

山形縣令從五位臣三島通庸、爰ニ僚屬ヲ率テ、謹テ祝辭ヲ上ル。高キニ昇ル必ス卑キヨリシ、遠ニ行ク必ス邇キヨリス。今ヤ　神州　鳳翔ノ轍ナラザル靡ク、旭章ノ耀カザル靡シ。乃チ是他日

天皇陛下ノ、全地球ニ親臨マシマスノ端緒ナラン乎。維新以來、近畿遐陬ヲ隔テズ、三伏ノ炎熱ヲ冒シ、萬岳ノ絶險ヲ踰ヘ、遠ク我羽州ノ民情ヲ問ヒ、親シク郡縣

施政ノ可否ヲ視察シ給フ。厥仁ヤ天ノ覆フガ如ク、厥德ヤ地ノ載スルガ如シ。實ニ　聖恩無量ノ昭代ニ際會セリ。茲ニ明治十四年九月三十日、何等ノ吉祥ナルヤ、蹕ヲ本縣ニ駐セラレ、草木爲メニ蘇シ、山川自ラ潤ヒ、歡呼ノ聲、洋々トシテ管內ニ湧ケリ。恭ク惟レバ、臣通庸　聖明ノ威德ヲ仰ギ、職ヲ此地ニ叨リニセシ以降、夙夜惕若トシテ纖毫縣治ノ擧ラザルヲ懼レ、拮据黽勉、未ダ犬馬ノ勞ヲ竭シ、涓埃ノ功ヲ奏スル能ハズト雖モ、道路稍闢ケ殖產起ス可ク、水利漸ク達シ、貨源通ス可キヲ得タリ。爾後誓テ期ス、敎化倍々隆ニ、校學逾々振ヒ、以テ積年ノ陋俗ヲ一洗シ、朝旨ノ存スル所ニ膺ヘント欲ス。抑モ羽州六十有餘萬ノ蒼生、殊ニ千歲ノ一遇ト謂フ可キハ、神武天皇東北ノ匪徒ヲ攘ハセラレント、辱クモ此國ヲ征討シ、此氓ヲ綏撫シ給シ以降、物換リ星移リ、列聖二千五百餘年ノ久キヲ經歷セシト雖モ、遂ニ一タビ龍顏ヲ拜覲セシ者アラズ。豈圖ランヤ、本日咫尺ニシテ、宸極ノ餘光ニ接シ、

天顏ヲ拜シ奉ル」。是レ管內古今未曾有ノ幸福ニシテ、臣通庸抃喜雀躍措ク所ヲ知ラザルニ至ル。伏テ冀クハ國運旺盛ニシテ、寶祥疆リナカラン」ヲ。誠

恐誠惶、頓首百拜シテ肯テ祝辭ヲ奉ル。

奉祝臨幸表

山形縣師範學校長　齋藤篤信

維明治十四年九月二十九日。車駕幸山形縣之三日。（記者按するに三の字或は傳寫の誤ならん）臨御師範學校。卽三島山形縣令夙奉　聖意所創立。特寵也。具員篤信誠惶誠恐頓首再拜。

聖謨宏遠。乃武乃文。庶績咸熙。惟謂民惟邦本。而學惟爲民本。故臨御退陬。以益固民生。臨視校學。以益作民心。於戲。聖明在上。天階穆肅。侍御在下。一堂齊整。百度諸宜。伏惟天下大業。聖政萬機。勸業理財。豈謂不急。萬國超峙。豈謂不期。而勸業理財之功。由乎知識開達而成。萬國超峙之業。原乎尊王愛國而崇。要其歸。皆胚胎乎幼童。而風化亦大成于茲矣。其育成擴充之者。一在於校學。而本校爲其模範。師範學校於是乎益爲重矣。是　聖意所託。縣令所體也。譬諸四時行焉。百物生焉。其職于此校者。孜々奉體。以毓才英。固其分也。況逢今日絕代之寵光乎。自今勵精率先。益奉　聖意廳旨。勉而不

已。則其於出人材。助風化。振校學之萬一。幸得免乎罪戾乎。仰則天方晴四山雲開。旭嶽之突兀。月山之雄偉。與藏王龍峯之奇狀崚嶒。東西各縮頭。而人軒楹。羅稙黃雲。嘉穀穰穰。民竈炊煙。雞犬聲々。皆奏祥瑞於 御座。而庶民抃舞。歡聲洋々。後后之望是極焉。微臣篤信。羽州之蒼黎。而職叨校長。感喜最深。玆率衆生。以奉祝。山形縣師範學校長齋藤篤信誠惶誠恐頓首再拜。

奉祝臨幸表

山形縣師範學校一等教諭 肝付兼武

大矣哉 聖德。普天率土無不逼被。而若我山形縣民。殊有浹洽骨髓者。殆非他府縣人之比也。請條陳其所以然。夫三岬道在縣之北邊。古昔稱有邪無邪關。斗絕海中。谿谷突兀。而本縣及三越佐渡人赴北海者所必由。攀涉之際。動轉躓。傷其身者往々有之。今輙悉削夷。平坦如砥。人得連袂。此其一也。清川水程。急湍十里。石觸瀨激。舟難前進。會雨雪阻。留六七日。猶且不易濟。自古稱難道。今輙斬怪岸。闢荆蓁。大道始通。人馬疾行。一日而得至。此

其二也。通秋田宮城二縣之道、其又大險。而本縣素遠于海。一切海物盡仰之宮城。以險故不可致。今皆開鑿之。往來無阻。新魚上于市此其三也。福島縣東京道之所由。舊道迂遠。崎嶇多畏途。凡國物之輸于都者。負擔以送。其費不貲。民頗困矣。今輙穴栗子山。隧道八千尺。廣容十人併行。此其四也。縣市城濱馬見崎川。多水害。今輙築石堤。高大長里。患頓弭。民莫不聊生者、皆云非明天子在上。開國之功豈得如此其速哉。凡此五者。他府縣之所未聞也。外之則架石橋。清道路。營病院學校。祭招魂墓。凡治國之法綦備。且今 鳳駕北巡。問勤勞。恤孤獨。功烈休德。日本武尊東征後之所無。會今歲大熟。可餘三年之蓄。百福沓臻。於是病者起。學者吟。農商百工。各扶老擎幼。壺醬而奉迎聖駕。或至有請獻費營行宮者。非感恩之深且洽。決不能致此極盛也。詩曰。我王不遊。我何以休。微臣今承乏敎諭。幸得値此明時。雖不文不可默。聊述 皇仁莫大。人民歡喜上下泰通之意以奉祝。時是際秋風日漸冷。謹奉祈皇體之安。微臣肝付兼武 誠恐誠惶頓首頓首。

明治十四年九月三十日。聖駕東巡。駐於山形縣。恭賦蕪律三首。以呈侍從。

山形縣師範學校監事　斗ケ澤　汪

慇懃化工意。似祝玉鑾旋。北海生祥霧。東山吐瑞烟。幽避皇澤遍。僻落聖謨宣。豈翅民洪福。彼蒼也靄然

東巡又北幸。龍駕及邊陬。憫諒民難苦。諮詢物進修。風潮殊冒險。炭鑛辱探幽。聖體須無恙。仁聲到處咻

戎孽從王化。羽陽開國來。幸逢斯昭代。欽仰厥勅裁。映日鸞旗閃。度雲鳳輦回。天顏人始拜。歡笑耳盈哉。

山形縣師範學校二等助教諭　宮島　昇

伏惟　天皇陛下。叡聖神武。繼承列　聖之丕績。當中興之隆運。奠鼎新京。大振紀綱。一日萬機。庶績咸熙。乃舉百世之曠典。巡狩四方。以訪民瘼。實萬世無疆之休。臣昇恭惟。天皇陛下乾德至聖。協和萬邦。撫輯黎甿和氣洋溢。

將麟出鳳至。於戲　聖德天覆地載。遐邇不遺。北巡之駕。民僕之久矣。是以羽林之騎一入吾境。民庶扑舞。歡聲洋洋。扶老携幼。奉迎恐後。駐蹕兩日。遂親臨我師範學校。夫政之要。在淳風俗。淳風俗在愼敎育。是　聖意之所託。所以有今日臨校之惠也。臣不佞。叨辱助敎諭之任。得拜寵光於咫尺。豈可黽勉以不體　聖意哉。獨恐學淺才疎。無補於萬分。唯有跼蹐而已。冀聖代寧謐。聖壽無疆。永保天祐於萬斯年。山形縣師範學校二等助敎諭臣宮島昇誠恐誠惶頓首再拜。

行幸あらせられたまひけるをりに、かしこみかしこみよみて奉る歌、并短歌

海上胤平

掛卷もあやにかしこき、秋津神我　大王、あまさかるひなの手振も、わたり島蝦夷の手業も、こと〳〵に見ましたまひて、天の下をさめまさむと、出さけて夏の盛のてる日をも厭はしまさず、岩かねのこゝしき道を、とほしともおほしまさずて

いてたゝすことそかしこまめくらさることそたふとき、したかへるみともつかさは、初雁のわたらふなとして、いくつらかつらをみたさす、ゆくらかに大路ねるらむ、おほたからみ民かとも、白菊の花ふさかけし、御輦のみすのすきかけ、たかたかにをかみあくらん、足曳の山をこえさせ、わたつみの海をゆかせ婆、山祇の神も導き、海若の神も護らひ、みをさきにつかへますらむ、かくしあれは平らにまさん、しかしあれはやすくまさむを、平らけくやすくいませと、小柴さし布麻も手向て、あさな〳〵夕な〳〵に、乾坤の神に額拜、こひのむ我は。

反歌

わたつみの神をいはひて、浪あらき蝦夷の島人みゆき待らむ、

博物館に迎へたてまつりて　荒賀直哉

みたみらか造りしもの丶八千種を、集て君の御幸をそまつ、

大御幸をかしこみ〳〵ほきまつる長歌

深田康守

掛卷もあやにかしこき、すめらきの神のみ代より、久かたの天津日嗣を、つきませる吾大王、天の下しろしめしゆ、そらかそふ大政、古にかへし給ひて、物皆はあらたまりつゝ、望月のみちたらひたり、そこをしもみしたまはんと、天放る鄙の境に、はろ〳〵にみたゝしまして、まきたつあら山こさせ、しき浪のさわくあるみを、たゝりたりわたらしまして、おふたからいたはりませは、くぬちの大み寶は、うまこりのあやにとふとみ、夏草の靡けるなして、うへしこそ仕ひまつれる、大み代はおほやまのこと、萬代に動かす有らむ、み民らはうしほのことに、ます〳〵もふゑも行らむあし原の瑞穂の國を天地のよりあひの極み、しろしめす神のみことし、のりませし御祖の神も、ひさかたの天かけりつゝ、みし給ひうれしみまさん、大御幸かも。

祝辭

山形縣一等屬兼濟生館長　筒井明俊

伏テ惟ルニ　鸞輿ノ到處、宸光ノ及フ處、山川之カ爲メニ清ク艸樹之カ爲メニ潤フ。況ヤ衆庶ニ於テヲヤ。我山形縣ノ地タル東北ニ僻在シ、古來頑陋ヲ免レ

スト雖モ、聖明ノ及フトコロ、人烟漸ク富庶、智識漸ク開達、正德利用厚生ノ道具備セルモノ鮮キニ非ルナリ、況ヤ、鸞輿親臨ノ今日ニ於テヲヤ。顧フニ自今勸學ヤ衛生ヤ殖產ヤ其他諸般ノ事、日ニ月ニ進ミ忽ニシテ舊觀ヲ改メントス。乃本館掌管スルトコロ、治療衛生醫學ノ事務ニ於ルモ、益振作シ益興張シ、其面目ヲ換ヘンコト、躍ヲ企テ、俟ツヘキナリ。臣等乏ヲ館務ニ承ケ、夙夜鞠躬、益宸極餘光ノ萬一ニ奉答セント欲シ、感激切々ノ至ニ堪ヘス。本日御代巡ノ榮ヲ辱シ、謹テ祝辭ヲ上ル。明治十四年九月三十日、山形縣一等屬兼濟生館長筒井明俊誠恐誠惶、頓首頓首百拜。

奉恭賀　聖駕巡狩

山形縣濟生館醫局長　長谷川元良

天心元與萬民俱　遭遇明時仰聖謨　休道羽山偏且陋　鸞輿駐處卽皇都

恭賦一喝、奉祝羽州巡幸之榮

山形縣羽前國東村山郡山寺村寶珠山天台宗立石寺住職　壬生優田

陸行窮處御龍船　暑氣難侵氷海天　貢物爭輸各州產　東陲種德地無邊

奉賀　臨幸表

鮑海郡公立中學校一等助教諭　成富一郎

世有非常之主。而民蒙非常之澤。伏惟　皇帝陛下。容文威武。卽倒覇府。復祖業。以起久廢之典。便卜都於中土。奠鼎於武藏。人心靡然知所向。而名分復明於天下。臣愚以爲。興業也難。而守成也亦難矣。今興業之難已成。而又遭守成之難。宵衣旰食。勵精求治。取人必撰秀才於邦域之內。政則廣採歐米之秀而參酌之。置元老院而定憲法。起縣會以議稅課。變兵制。勵農商。明天文地理。開工業技術。其他凡百事務。無一不精便者也。於是乎。舊染汚俗。盡與是新。人智日進。與昔日不可同視也。聞洋人有言。觀一大開明國於東洋之波間將在近。果知非虛稱也。故云世有非常之主。而民蒙非常之澤焉。今茲明治十四年辛巳之秋。鸞輅北駕。親視民之疾苦。今又見臨我中學。撫育之功一何至此乎。嗚呼我史乘所未視之盛典也。微臣亦以奉職於本校。親得仰　龍顏。爲榮甚而感無限。凡有所感必有所激。自今益盡力我職務。以報　聖恩萬

分之一而已矣。誠恐誠惶頓首再拜。

奉祝巡幸

琢成學校小學上等三級生　高山林次郎

茲ニ明治十四年九月、我文武叡聖ナル　明治天皇陛下ニハ、輦輿ヲ我奥羽地方ニ向ケ賜フ。夫レ我國開闢以來、已ニ二千有餘年、而シテ奥羽ノ如キ未ダ曾テ此ノ如キ美事アラザルナリ。今ヤ六龍親ク人民ノ疾苦ヲ問ヒ、或ハ各地方ノ學校ニ親臨シ賜ヒ、以テ進歩ノ實効ヲ褒賞シ、將來ノ事業ヲ奮勵セシメラルヽハ、我地方ノ幸福何ゾ是ニ加ヘンヤ。聊カ鄙意ヲ陳ベ、北地　御巡幸ヲ祝シ奉ル。

臨御朝暘館頌並序

西田川郡中學校教員　中臺直矢

維明治十有四年秋九月　皇帝徑三陸。航龍飛。巡蝦島。斯至羽州。回駕於鶴岡。臨御朝暘之館。以親視諸生之業。中學教員臣直矢。得以艸莽一介之躬。遭豐亭王假之時。恭拜・天威。何慶加之。敬上頌一篇。

仰陽旭于東雲。下土攸同。迎　六龍於北郊。群黎攸悰。炤其光耀。慕其高蹤。皇上敦學。群卿奉公。文命夙敷。學宮有崇。維此學宮。髦士攸處。厦屋隆棟。爰堅其礎。典書史策。歐籍秩叙。斯學斯誨。翹々者楚。于縣有令。于郡有長。下民倡和。父勸兄奬　皇澤逮遠。禮儀孔爽。嗟呼　帝德之昌。觀風省方。回玉輅于郡學　舉赤舄於公堂。學士之慶。衆庶維望。孰不獻千祀之祝。地曰鶴岡。孰不奉升日之頌。館曰朝暘。天子臨之。邦家之光。

奉賀巡狩二首

西田川郡朝暘學校教員　小室由成

昔聽有虞巡五載　忻逢　龍駕問蒼生　省方親重北門鑰　振武且觀東鎮兵　禾稼秋含惠露熟　滄溟風掃祲氛平　神州威德於今見　盈耳頌聲到處迎

白鶴皐頭白鶴群　鶴聲高徹九天聞　山迎　鳳駕明瑤雪　鸞駐　龍旗拂瑞雲一自皇畿先敎化　終令邊壤仰斯文　朔南引領來蘇澤　不識何以答　聖君

奉賀巡狩表

西田川郡中學校生徒　佐藤鐵太郎

臣鐵言。伏惟　叡聖文武皇帝陛下。權宰牧或奸。憐鰥寡或困。以辛巳七月下澣巡狩。天地交慶。神人合歡。臣鐵誠歡誠喜頓首頓首。臣聞爲政通下情爲急。故古聖王擧用賢良。流竄奸邪。察民情。問疾苦。天下爲治。國家爲安。風雨以時。祥瑞輻湊。伏惟　皇帝陛下。聖神睿哲。仁恩弘大。子育億兆。親之無有親疎遠邇。遇之一如畿甸之間。循拊旣遍宇內。視察不遺寰區。大小之才咸共其用。左右前後莫匪俊良。以故環海之間。含生之類。慶抃以歌。歡欣以舞。而

陛下。尙不寧居。以炎威赫々之時。巡幸北羽北海。親察下情。德星光天。餘慶遍地。率土蒼生莫不感咽　聖恩之深。臣鐵誠歡誠喜頓首頓首。臣生于僻陋之地。居于山野之陬。雖不能拜　龍顏于畿甸。幸得仰　玉輿于咫尺。何慶加之。不堪抃蹈之至。謹奉表陳賀以聞。臣鐵誠惶誠恐頓首頓首。

山形縣羽前國西田川郡鶴岡鷹匠町十九番地士族　服部正樹

秋田守とまやは露のしけゝれと、日影に賤も袖やほすらむ
うれしさにあひくる世ともしらすして、老にける身をなに歎きけん

御巡幸を壽奉りて詠る長歌幷短歌

山形縣下羽前國西田川郡鶴岡鳥居町七十一番地士族
權大講義　星川清晃

高光る日の御子、天の下治め給ひて、御民等を撫給はむと、天放る鄙の界を、遙々にみめくりますと、風の音の遠音に聞て、みたからはまちよろこほひ、緣子の乳をこふごとく、只管に待つゝ居れは、草枕氣長き旅を、天地のよりてあれこそ、眞幸くもみめくりまして、鳳輦のいわたりませれ、今日はしも迎へ奉ると、みたからはゆすりきほひて、道もせにいむれ集ひて、眞寸鏡照れる御面を、天つ日の仰きをろがみ、諸共にことほきあへり、行宮と豫て定めし、此所はしもいともふさはし、世に愛る鶴と名に負ふ、所柄捧む設は千年萬代。

千町田のとしある稻葉わけ〳〵て音もたゆけくわたる御車

行幸を拜み奉りて作る長歌並短歌

照井長柄

しろたへの袖をつらねて、いてましをむかへまつると、ひたつちにひさをりふせ、愼めはそひらあせあえ、敬めは身さへしゝまり、みくるまの音のみ耳に、きこえけるかも、

大御世を手長の御世といはひつつ、うなねつきぬきをろかみまつる

奉祝臨幸表

山形縣羽前國東田川郡藤島村藤島學校教員補助　佐藤孫六

伏シテ惟レハ　叡聖文武　天皇陛下、辱クモ　鳳輦ヲ東北ニ枉ケ玉ヒ、御發輦ノ日ヨリ既ニ五十有餘日、今ヤ我東田川郡ニ　御着輦アラセ給フ。嗚呼　明治皇帝ハ民ノ辛苦ヲ訪玉フニ甚タ切ニシテ其能否ヲ洞察シ、孝子節婦ヲ賞シ、忠臣烈士ノ墳墓ヲ慰弔シ玉ヒ、而シテ所在學校或ハ勸業場等ニ親臨シ、進歩ノ實効

ヲ褒賞シ、以テ將來ノ事業ヲ奬勵セラレ、又地方ノ勝景舊趾ヲモ　叡覽シ、土風民情ヲ視察シ玉フハ寔ニ是東北人民ノ幸福ト謂ハサルヘケンヤ。後日ノ開進モ亦思フヘシ。回顧スレハ先ニ　聖駕北陸東海ニ巡幸シ、尋テ今兩羽北海ニ巡狩シ玉フハ、前古未タ曾テ有ラサル所ノ盛典ナリ。爾來日々月々駸々開明ノ美域ニ達スルニ至ル者豈疑フヘケンヤ。獨リ沿道地方ノ幸福ノミナランヤ、寔ニ全國ノ幸福ナリ。山海其高深ヲ極ムトイヘトモ、何ソ是ニ比スルニ堪ヘンヤ。臣草莽ノ間ニ屈居シ、恭シク此盛典ヲ仰タ、豈感喜雀躍セサルヘケンヤ。誠恐誠惶頓首々々謹表。

酒田町士族　佐藤惟方

高殿にみそなはすらむ賑はへる袖の浦わの民のかまとを

吹浦村平民權少講義　敷地笠麿

大君の光にあたるうれしさに海士の袂もけふそほしぬる

奉祝臨幸表

南置賜郡成島學校訓導　上村節藏

維新以來。皇德光被四表。文化偏於海內。校旗翻々靡山野。飜海之濱。樵
蘇之兒。佃漁之子。無不浴聖代之恩波。況於都市乎。讀書之聲滿耳。謳歌之
音滿巷。南風之薰郁々溢寰宇。陸馳汽車。海飛汽船。電信報萬里。郵便傳萬
國。學分七區。誘導生徒。兵置六鎭。擴張國威。機械製造。盡精而極巧。開
化駿々。遠及邊陲。日月所照。雨露所濕。無不悅服矣。盛德大業。嗚呼盛哉。
恭惟　天皇陛下英姿天挺。偉略神授。仁踰難波炊煙之日。恩過寒衣憶貧之時。
鎭撫萬邦。子育黎庶。於是乎。擧巡狩之盛典有年焉。今年八月　龍駕發京城。
經東山道。遠浮龍舟。而幸北海道。蠻夷弁服。古措而不論者。今化爲純粹。
茫々曠野。古荒而不鋤者。今開爲都爲田。起業殖產。日增月盛。山河萬里。
皇風所吹。草木悉靡。僻地陋邑。鳳輦所幸。兆民相慶。豈有他乎仰至德也已。
龍駕旣過山形。辱　臨幸米澤。米澤上杉之舊封。謙信治憲之流風遺俗猶存。
民爭拜　鳳輦。感泣流涕。無不呼萬歲者。雖有縣令之諄敎。非天皇陛下之盛

德至善。則豈能到是哉。臣曾奉職東京。輦轂之下。恭觀憲章典禮之隆焉。今
旣歸鄉里。欲報　皇恩萬分之一。於是乎從事於敎育。幸逢此盛典。欣喜踴躍。
不覺舞踏。敬奉祝萬壽無疆。庶幾皇威赫々輝宇內。永與天壤無窮。誠恐誠惶
頓首百拜。

山形縣廳に臨幸の時

七等屬　松井秀房

久かたの雲井遠けき縣居に日影ま近く仰くけふかな

九等屬　伊藤十郎平

大駕遙々千里臨　聖明問遍下民心　月山高矣藻川濶　不及萬尋皇澤深

西置賜郡平山村平山學校教員　上村鋼一郎

秋風のそら吹おとも御先おふこえりとはかりかしこまれつつ

東村山郡高擶學校學務委員　岡崎左學

むかしよりためしたになき大君の行幸をあふく今日そ嬉しき

西田川郡士族　關口爲寶

花にくらし月にあかして老ゆくものとけき御代の恵なりけり

士族　三浦幸太

いく千代も民安かれと御幸して鶴か岡へを見そなはすらむ

東村山郡高櫛村平民　佐藤莊太郎

風翻錦旆映晴穹　衆庶恭迎感豈窮　威德昔年垂海外　仁恩今日遍邊東
人呼萬歳歡聲沸　雲擁六龍佳氣濃　振古未聞巡幸例　清晨伏地拜行宮

同　齋藤文太郎

風穏天晴旭旆翻　拜觀鑾駕渡山村　今朝露濕路傍草　卽似黎民浴聖恩

たふとしな皇孫の命の天降らして神代おほゆるひなの出まし

南置賜郡成島村　鈴木茂輔

日の恩を穂なみにうけて稲の出來

濟生館屋　金森武造

明月の光洩るゝや草の庵

北村山郡尾花澤村　柴崎彌左衞門

おもひきや夢にもあらてわか里に天つ日嗣の王を見んとは

北村山郡楯岡村　佐藤豐八

南村山郡八日町　清原長閑居

大君を鄙にしあれと夢ならてうつゝにをかむ御代の嬉しさ

南村山郡宮町學校九等訓導　田中大次郎

出羽なる千歳の山の老松もまちこそえたれけふの行幸を

南置賜郡館山村　石井祇一郎

御輦のとゝろくときは山形の縣も花の都なるらん

高櫛學校十四級訓導　佐藤源三郎

奉祝聖駕北巡

恭ク惟ルニ書ニ無逸ヲ誦シ、詩ニ豳風ヲ歌フ。陛下列聖ノ遺志ヲ繼キ、中興ノ洪圖ニ膺リ、競々業々、宵肝治ヲ求メ、東狩西巡、久シク逸豫アルコトナク、今又炎暑ヲ冒シ、遠ク北海ノ險ヲ踰テ、蹕ヲ我山形ニ枉ク、鑾輿ノ過クル處親シク稼穡ノ艱難ヲ視察シ、政事ヲ諮リ、工藝ヲ奬メ、風俗ヲ察シ、養老ノ典ヲ行ヒ、忠臣烈士ノ躅ヲ弔シ、孝子節婦ヲ旌シ、育才右文ノ義ヲ展ヘ賜フ。皇恩ノ厚キ、月嶽ヨリ高ク、聖

謨ノ廣キ北海ヨリ深シ。歎聲街衢ニ充チ喜氣門閭ニ溢ル。今衆敎師ト共ニ生徒ヲ率キ路傍ニ奉迎シ、天顏ヲ咫尺ノ間ニ拜シ、德容ヲ尋常ノ傍ニ望ムヲ辱クス。仰キテ　皇德ノ巍々タルコトヲ欽シ、俯シテ　聖壽ノ無疆ナルヿヲ祝ス。今ニ嗣キテ以往、日夜勉勵刻苦此恩惠ノ優渥ニ答ヘムヿヲ誓念シ、抃舞欣躍ノ至ニ勝ヘス。恐惶々々謹言。

北巡已了又東巡　盛擧從來出至仁　僻地寒村齊唱賀　也知恩澤遍斯民

同　人

東村山郡漆山村漆園學校教員　矢萩精一郎

政治民豐世自淸　鑾輿過處瑞雲生　秋田香稻山形月　一段風光相送迎

東村山郡天童學校訓導　柳澤重固

奉祝北巡表

恭惟聖皇陛下。以敢果之斷。已治國勢之痛。以明敏之資。夙達四方之志。聞乎無聲聽已聰。見乎無形視已明。振起文武之道。柔近懷遠。於是小民煦煦

懿德。日脫舊陋之弊。可謂紀元二千五百年別開一乾坤矣。猶與盛矣。而今又有北巡之盛典。安知非聰益聰明益明。既知之民情。亦將目擊足踏纖芥不贏哉。嗚呼從神武天皇定鼎中原。此地斯民既王土矣。既王臣矣。雖然。榛莽荆棘。爲夷爲僰。其爲北海道者。實在近日焉耳。臣重固亦生長于此。誤承乏村覺。有蚊虻負山之思焉。而欲觀四驪之濟々。開鸞聲之噦々。日久矣。今如大旱望雲霓。喜極而泣。臣之生此時。幸莫大焉。豈特臣等之幸榮而已哉。月山之雪。千秋不消。最上川之水。萬古不竭。而得迎太平天子之鸞輅。寔始於今日矣。鳥非縣下億萬赤子之幸榮乎。可謂紀元二千五百年。羽前之國。亦別開一乾坤矣。見有黃耇會于野。相賀曰。今年春夏之交。風雨不順。寒暖無度秋苗爲不長。七八月之間。彗星見乎北方。考其兆。則恐年之或凶耶。然而不振之苗。勃然而起。妖星遂不爲禍。先之疚首者。乃轉相皷腹。而適拜迎鸞輿。是所謂妖不勝德者乎。嗚呼是野人傖父之言。固不足採已。雖然民之懷德。庶幾可卜其情之萬一也。臣重固輩豈可不奉祝乎。誠恐誠惶頓首再拜。

恭祝鳳輦北巡

飽海郡中學校生徒　松田卯之吉

叡聖文武皇帝陛下。勵精圖治。仁侔蒼昊。德洽六合。有薰風之惠。無秋霜之科。寒暑維序。風雨維時。普天率土。皆在雍熙之中。維時辛巳中秋。車駕巡狩北陸。稽敎育之得失。察牧吏之治績。沿道衆庶誰不喜踴。賤臣無任欣躍幸慶之至。

奉祝　巡幸表

琢成學校教員　總崎利貞

伏惟　皇帝陛下　睿聖至德。夙興夜寐。戰々兢々。萬生是憂。則設庠序之敎。以昭布四方。恰如南風薰草木。率土靡不被　聖化。巍々然盛德哉。今玆辛巳夏七月。車駕巡狩于東北。而親察閭諸縣之治績。蒼生疾苦。凡在生靈。誰不幸慶。以本月本日見駐蹕於我飽海郡酒田。衆庶之感喜何堪。而又辱光臨於我琢成學校。親覽觀生徒之習業。以賜奬勵。此實闔郡黎庶之幸福。非獨臣等幸也。夫兩羽素遐陬之僻國。是以如士民。開明進度。比之他邦。常在其下

今乃得拜迎鑾輿。而親薫　聖德。沐盛恩。他日開化大進。至不在他邦之下。翹足而可待也。臣以空疎奉職本校。頑陶子弟。而成其器。以供國家之用。是則所以萬分之恩報一二也。豈鞠躬可不盡力哉。臣感銘恩榮。不能自默。敢陳微衷。謹拜表以聞。

日のみこの光をあふく今日よりはいよ〳〵民の道をつくさむ。

飽海郡松嶺町士族　齋藤元經

大君のけふの御幸を出羽なる神もうれしとおもはさらめや

鶴岡士族　金野久徵

日の御子のみかけをあふくいふけふこそはくもりこゝろをたれかもつべき

楢尾神社祠官　鈴木文右衛門

大君のかしこき御代になからへてたくひたになき御幸にそあふ

鶴岡八日町士族　松平久彰大祖母　松平寵子

大君の深き恵を聞からに高麗もろこしも御幸待つらん

南置賜郡仲間町士族　泉崎彌一郎

大君の千世に稀なるいてましにひなの縣もにきはひにけり

南置賜郡御廟町　藤田八十八

神代にも聞かぬ御幸の御恵を千代も八千代もわすれぢの山

南置賜郡綱木村戸長　中川亦次

東田川郡幼導學校訓導　吉野安道

千頃浩波萬重山　北邊東陬歷辛艱　不是宸遊輕聖體　仁恩切在察民忠。

奉祝　臨幸表

藤島學校訓導　牧　賴　元

恭惟。明治維新以來。百度革揆。文物殊觀。開其殖產之道。興其庠序之敎。以擧賢才。以淳民化。當此時也。苟有材能者。朝擢草莽。夕登顯職者。寔爲不少矣。於是乎。苟有其志者。誰又奮有不研其臣節。盡其義務者哉。然而欲修此二者。非學不能也。夙出鄉土。遊于上國。能就其師。而學者莫尙焉。雖然心誠求之。何地不可學也哉。賤臣賴元曩負笈新潟師範學校也旣而業成。猶留其地。拜任于小學訓導。孳々從事有年于玆矣。時會明治十一年九月北陸東海有天皇陛下之巡幸也。賤臣賴元恭得拜觀　鸞輿之儀衞。而不知手之舞足之踏也。嗚呼北越寄寓中之幸福。夫何以及之哉。從是而彌益篤其奮悱啓發之志。欲奉酬　皇恩萬分之一者。至今猶銘其肺肝。然而一旦以親老。歸養于家山。重又拜乏于小學訓導。勵精桔据。唯不稱其職之恐耳。然而本年九月。會　天皇陛下有兩羽北海臨幸之盛典。賤臣賴元恭復拜　龍顏于馳道之傍。嗚呼　鸞

輿之所臨。親勞　至尊之聖躬。普觀察土風民情。賞其忠臣孝子。褒其烈婦義僕。慰其老。恤其幼。奬勵其學政。勸督其產業。欲使斯民各得其所者。寔是明治之偉典。前古所未曾有也。於是乎　天皇陛下愛民如赤子。其仁如天。其恩如海者。將普施及於宇內人民也。苟爲皇國臣民者。誰可不感激奮悱。以盡報國之赤心哉。賤臣賴元雖謭劣不肖也。職在訓導。孜々黽勉。以敎育兒童。奉揚文化。欲敢供于國家造士之一端也。從是而後。愈益研其心志。愈益脩其事業。欲以表其固有之誠衷也。豈但銘其肺肝哉。深徹其骨髓而不疑也。嗚呼昔之銘肺肝者。與今之徹骨髓者。都是　天皇陛下之賜也。伏冀　聖壽萬歲。永使斯民欽仰其德化。沐浴其恩澤賤臣賴元誠恐誠惶頓首頓首謹表。

高檔學校生徒　相澤貞吉

鳳車千里涉邊陲　衆庶歡迎獻祝詞　聖意應知文化遍　溫然喜色上堯眉

米澤門東町　宮島如水

里遠き蝦夷千島も天津日の御旗の風になひく民艸

奉祝　臨幸表

興讓學校訓導　大熊亨吉

巡狩者二典之所重。而帝王之一大盛事也矣。我邦開闢以還。積歷二千五百四十一。經代一百二十有一。其間景行帝之神武。齊明帝之英邁。雖巡東山。或狩西海。事既邈遠矣。爾來將門跋扈。黎元復奚見羽旆之美也。恭惟天皇陛下。惟聖惟神。惟文惟武。承列聖之丕績。膺中興之洪圖。競々業々。宵肝圖治。立賢無方。治具方張。俊介在官。庶績咸熙。克明俊德。無不率服。猶且不寧居焉。逐無逸於前史。慕難波之慈仁。尋志賀之美績。出九重之深。而視四裔之遠。嗚呼東巡之英謨。北幸之徽猷。曩年乃巡甲信。歸輦延于西京。今玆復幸兩羽。餘澤及于北海。眞惟千載一時之嘉會。萬世不朽之偉典也。誰聞車馬之音。欣々然莫不有喜色。見羽旆之美。始得遂徯后之望。豈得不揚頌聲乎。蓋跋涉山河。而視察風土之乂寧。巡覽遐陬而咨詢蒼生之休戚也。賞功慰勞。旌孝表節。尙齒之典。熙々歷々。於是乎　鑾輅所過。堯風靄々。人莫不

掬。龍駕所臨。舜雨霏々。民莫不浴。羽州之山疊々。幸免邊隅僻土之俗。函館之海茫々。既同輦下安堵之民。郁々仁風。浴于普天之下。洋々恩澤。濕于率土之濱。爰十月二日。駐玉蹕於米澤也。特扞　瓊轅於本校。校舍之光榮。學徒之幸福。何以加之焉。臣亨吉。叨承乏敎育。拜龍顏於咫尺間。辱德容於尋常外。天眷優渥。感荷不能措。庶幾奉戴菁莪之聖旨。夙夜黽勉。報涓埃之微末。不堪欣抃傾葵之至。奉表以聞。誠恐誠惶頓首再拜。

以上の外進獻の人數

南村山郡	四十二人
東村山郡	五十五人
西村山郡	五人
飽海郡	七十八人
西田川郡	五十四人
東置賜郡	二十八
南置賜郡	百六十二人

最上郡　三人

東田川郡　六十一人

北村山、西置賜二郡は記錄佚して知るを得ず、南村山郡の如きもなほ多數なりしと覺ゆれども、今詳ならず。

第二章　駐輦碑

各地に駐輦の碑を樹てゝ　聖德を永遠に記するもの左の如し。

一、東田川郡駐輦碑

明治十四年辛巳秋八月。車駕北巡。以九月二十三日。臨山形縣東田川郡。有栖川熾仁親王。北白川能久親王。及參議大隈重信。大木喬任扈從。郡長率僚屬戶長及縣會議員等。奉迎疆上。以清川村學校爲　行在所。網魚最上川供　覽。黑川村農民奏猿樂。賜金五十圓。二十四日駐　蹕郡衙。賜金二百圓。郡吏以下皆有　恩賜。特旨恤極貧及罹災者。又給郡民八十歲以上養老資。郡民獻四季農事圖。二十五日　臨視莊內藩士族後田村墾闢地。賜金

五百圓。奬勵耕織事。豐榮村日向三右衞門。捐貲繕造　行在所。特賜金五十圓及物。其他駐　輦處。狩川村則見龍寺。橫山村則菅原美繼。押切村則加藤安興。新堀村則加藤勘右衞門。余目村則佐藤善治。廻館村則相馬繁之家。及殖產興業供　覽土宜方物者。各賜金及物有差。郡民讙呼。爲千歲榮典。於是郡長石井武雄。郡書記鈴木重光。中村有行。吉田哲茂。戶長五十嵐九兵衞。加藤三七。石栗六內。富樫信好。議員齋藤良輔。石川養貞。齋藤多右衞門。本間多右衞門等與郡父老謀。欲建碑郡衙以記盛事。因縣令折田君請余屬文。顧兩羽僻在東山道一隅。田川郡劃月山朝日二山及最上川。舊屬莊內藩。今則分東西二郡。隸三鄉一百九十三村。幸際　聖代　開道路便舟車。郡民醵七千六百金。築郡衙。極輪奐之美。遂至辱　臨幸。聖上撫下之恩。郡民奉上之誠。相得而益深。以霑洋々之化。此宜垂後代以訓子孫者。余不獨爲諸子。併爲國家萬世慶之也。於是乎言。

明治十八年四月　　陸軍大將一品大勳位熾仁親王篆額　從五位長炎書

編修副長官從五位勳六等重野安繹撰

二 喜早溜井之碑

陸軍大將兼左大臣二品大勳位熾仁親王篆額

羽前楯岡喜早氏。世有素封之稱。及伊右衞門源義包。憂其鄉乏水利。捐貲一萬金。築溜井於邑東之地東澤。明治九年九月起功。十三年十一月告成。周圍二十有餘町。雖大旱不涸。邑人賴而田焉。翌年九月皇上臨覽。嘉其捐貲興利。賜木杯及金五十圓。左大臣有栖川親王賜特狀賞成績。請余撰銘。銘曰

村山爲郡。峯巒四奔。村占山麓。人耕高原。每夏月旱。炎塵晝昏。熇土龜裂。枯苗僅存。不凶而飢。實維民寃。邑有仁者。築土爲垣。渟蓄雨水。以爲泉源。四疏溝瀆。徧漑田園。四時不涸。其灌渾々。人賴其利。惠被六村。絲麻稻粱。百卉寔蕃。歲占豐饒。以飽以溫。工亘五歲。督功理煩。貲皆已出。不敢言恩。皇駕賜臨。史傳恩言。會賓祝宴。有苾酒樽。積斯陰德。慶汝子孫。

明治十八年四月

岡千仞撰文

三 川樋學校碑

正四位山岡鐵太郎書

陸軍大將左大臣二品大勳位熾仁親王題額

川樋村者。在自山形至米澤中途。地勢平衍。土沃水甘。民頗富。隣村曰小岩澤。曰中山。曰川樋新田。四村相謀醵金。築小學。粉壁玻窗。遠望之巍然如王侯之居。明治十四年秋。天皇北巡。抵山形。駐蹕于此校。村民甚喜輙除道路。潔庭砌。設玉座于中央奉迎。

天皇喜之。賜村民金壹百三十圓。敎員十五圓。衆莫不感泣焉。村有泌泉。清洌可鑒。盛夏不涸。左右汲以供茶湯。嗚呼兩羽之遠僻車馬絕迹。而學校辱駐蹕之榮。泉水得供御用。蓋前古未曾有。爲榮何若。村人請余文記其顚末。刻石傳之不朽。余時爲縣學敎諭。不可以不文辭。乃記其槩。且銘曰。

皇澤所及。至大至公。荒陬遐邑。無有異同。何以報之。曰孝曰忠。

明治十五年四月

山形縣一等敎諭肝付兼武撰文
正五位　日下部東作書

四、赤湯御巡幸記

明治元年

天皇始親萬機。越十有餘年。天下大治。百廢俱興。獨奥羽及北海道。崎嶇天險。水陸阻梗。民物愚魯。王化未洽焉。是歲明治辛巳九月。聖駕親巡北陲。察土風。訪民瘼。輦道皆歡呼逢迎。洋々動地。而置賜赤湯之人石岡要藏。特以自費經營行宮。天皇嘉之。特褒以寵賜之。要藏深感希世之遇。欲記以傳後嗣。請予記。乃謹記曰。明治天皇叡聖神武。同仁一視。勵精圖治。頻年巡諸道。今玆幸東陲。先使杉宮內大輔視察沿道焉。要藏聞之踴躍自奮曰。是絕代盛事。爲臣民者可不表報恩哉。會三島縣令歸自東京。與東置賜郡長柴山某館要藏。要藏乃親謁縣令。請獨力營行宮。縣令大感。遂見許。驛中央有舊藩主上杉氏之別館趾。乃卜定地於此。先令中山某。採材於矢野澤山。石於驛北之山。

明治十四年七月一日肇起工。而八月廿八日竣。以觀工人亦奮。晨夜竭力不啻。先行數日。松方內務卿到焉。繼舊藩主上杉氏亦到焉。皆感要藏報効之偉云。越九月廿九日車駕至山形。十月一日始至赤湯御行宮。卽要藏所營也。皇族大臣以下。各在其次。羽林騎護衞。縣吏前田某。郡吏服部某等。幹當日事。時無一爲山形縣大書記官。此日代縣令而奉導。德大寺宮內卿奉

勅。令無一賜菊章銀盃及金圓以褒其志。惟東巡之事以今上爲始。眞爲絕代盛典矣。而要藏以僻陬一民。獨力營行宮。雖曰由感恩之湧。抑亦非常人所及。俱不可不記而傳者矣。是余所以不辭其請也。

明治壬午春三月　　從六位　深津無一謹記

五、東置賜郡迎鑾紀恩碑銘

往時封建爲制。諸侯各畫境自守。法令嚴密。庶民病焉。羽前州東置賜郡。舊隷米澤藩。中興藩廢。爲山形縣所轄。開道路。均賦役。設學校。勸農桑。上下歡洽。謳歌載塗。明治十四年秋。車駕省方。縣令三島君通庸。奏郡民

後后狀。乃以十月一日　臨幸茲土。大道布沙。左右設欄。五町一棚。十町一棧。陳幣帛。列俎豆。男女稽顙如對神明。至高島。以郡衙爲　行在所。一邨歡呼。至夕揚煙火。每戶植竹竿。懸毬燈。一竿所懸多者百餘。少亦不下四五十。燭光映照。宛然不夜城矣。翌朝　幸屋代校。陳土產數十種。供御覽。是日賜金若干圓。後經三歲。衆追仰不已。謀傳恩典於無窮。今縣令折田君平內。大嘉之。於是用賜金及富戶義捐。建石於校外表之。以余往日載筆隨　駕也。遠來請銘。銘曰

王者之德蕩蕩乎。王者之民皥々如。有斯德而有斯民。孰謂世不若唐虞。

鐫銘貞珉錄夏諺。后則來矣民則蘇。

明治十七年夏六月建

宮內文學從五位川田剛撰

左大臣陸軍大將二品大勳位熾仁親王篆額

內閣大書記官從五位勳五等金井之恭書

六、龜岡村駐輦碑

從三位伯爵上杉茂憲公題額

駐　聖駕門庭。拜龍顏咫尺。是豈非幸榮之極哉。十四年　聖駕巡狩我山形縣也。十月二日。駐輦東置賜郡龜岡村鈴木吉兵衛氏而小憩。召賜白羽二重一匹金幣貳拾五圓。氏之幸榮蓋亦極矣。今茲丁酉。氏將記石。來請文。抑當日之事。太史記之。赫赫在國史。無俟卑文。乃謹賦詩以贈之。詩曰。黃菊紅楓秋色明。君家曾駐鳳輦行。長傳當日餘香在。恍覺祥煙滿地生。

明治三十年十月

伊佐旱謙撰書

七、川井村駐輦碑

從一位近衛忠熙題額

明治十四年七月。車駕北巡。十月二日將到米澤。以川井村爲小休。於是乎。戶長堤朝治及世話掛長谷川忠國。奔走爲備。以堤忠右衛門宅充焉。忠右衛門修邸宅。潔園庭以奉駕。既而尊拜　聖趾。旦夕不措。頃者恐其久而無聞。建石表之。欲傳餘香於無窮。保光榮於萬年。猗歟懿哉舉也。

明治二十九年十月

八、桑山村駐輦之碑

從二位伯爵　東久世通禧撰
從三位　秋月種樹書

從二位動一等伯爵東久世通禧題額

明治十四年。聖駕北巡。以十月三日由米澤赴福島。道經桑山村。村距米澤二里。玆爲　鳳輦少駐之地。當是時。同村戸長。村會議長。同議員。及用掛諸氏等。日夕奔走相地。終以字觀音原充焉。時會新道工事全竣。以同日擧開道之典。有詔賞其功。且賜名曰萬世大路。後二十一年。市町村制之發布也。合近村片子梓山刈安。爲一村曰萬世村。蓋取大路之名也。然而　駐輦之地。青松一株。茂欝參天。永表彰靈趾。樵夫牧童。過其下者。猶拜敬隆德。追懷不能措矣。嗚呼爲此地也。東望栗嶺。則層翠峨々摩蒼天。西則羽川洋々流廣野。俯仰勝絕。不可勝記。而往昔則寥々一小郵而已。故三島通庸之令山形縣也鋭意圖國利民福。務通道路之至便。排百難。鑿新道。自是車馬絡繹。行人不絕。面目一變。非復疇昔之陬邑也。

雖然星移物換其跡或恐終泯滅。於是衆相謀。醵資建碑。欲傳之千億歳也。偉哉此擧。使余記之。余豈可辭哉。

明治二十八年歳在乙未四月

從三位勳三等　秋月種樹撰
正四位勳三等　巖谷修書

裏面に左の和歌を刻す。

萬歳松　通禧

いてましをあふきて今も松かえにより世となふかせの音かな

大正五年一月二十日印刷
大正五年一月二十三日發行

編纂兼發行者　山形縣教育會
山形市七日町字東前百五十二番地
代表者　小田切磐太郎

印刷者　凸版印刷株式會社
東京市下谷區二長町一番地
代表者　河合辰太郎

印刷所　凸版印刷株式會社
東京市下谷區二長町一番地

348
340

落